

き　た　の　は　ら　い　せ　き
北　の　原　遺　跡
(遺　物　編)

1996年3月

長野県飯田市教育委員会

例　　言

- 本書は飯田市松尾地区における一般国道153号飯田バイパス（3工区）建設に先立つ北の原遺跡の発掘調査報告書である。
- 調査は建設省中部地方建設局の委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
- 試掘調査は平成3年9月～10月に実施し、発掘調査は平成4年4月から平成7年10月まで実施、整理作業及び報告書の作成作業は平成6、7年度に実施した。
- 本書は今回調査した一般国道153号飯田バイパス（3工区）建設予定地内で確認された出土遺物のうち、城跡・古墳関係以外と判断したもののみ掲載した。
- 本書中のMHK・CGY・UNJは調査地点を示すものである。
- 遺構記号は下記のとおりとした。
SB……竪穴住居址 SK……土坑・土壤 SI……集石 SH……配石 SD……溝址
- 本書に関連する出土品は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

目　　次

調査結果	1	UNJ	33・34
縄文時代	1	六道鏡一覧表 CGY	44
弥生時代	1	UNJ	51
古墳時代（茶柄山古墳群編へ記載）	1	寛永通宝	62
奈良・平安時代	1		
中世（上の城跡関係は城跡編へ記載）	1	図版	
近世	2	SB出土遺物	5
近代	2	SM	6
喫煙具	29・30	SK	6～14
銭貨	42～44	SI	15～17
骨蔵器	100	SD	19・20
その他		遺構外	21～28
		煙管	31～41
表目次		出土銭貨	45～50
SK出土陶磁器一覧表	2		52～61
SI出土陶磁器一覧表	3		62～99
SD出土陶磁器一覧表	3		
キセル一覧表 CGY	30	写真図版	103

調査結果

今回の調査で出土した遺物は、縄文時代から現代までにわたる土器・石器・金属器がある。そこで、時代別に遺物を概観し、報告とする。

1. 縄文時代

当該時代と判断できた遺物の中で、遺構に伴うものは確認できていない。土器については茶柄山地籍（18図1,2,3）と上の城地籍（20図1,2,3）で小破片が出土しているのみである。これらは中・後期と見られるが詳細な時期は判断できなかった。

石器は比較的多数出土している。そのほとんどは硬砂岩製の打製石斧であった。しかし、当該時代の遺構に伴って出土したものはなかった。SDやSKから出土したものもあるが、それらは混入品と判断した。遺物を見る限りでは、当該時代においてはこの台地上で人々が生活した痕跡は見当たらないが、石器の量から考えられるのは生産域（畑）であった可能性がある。

2. 弥生時代

当該時代の遺物は1号住居址内から出土したものがほとんどである。（1図1～11）

炉として使用されていた壺（2）の底部は欠損しているが口縁部から頸部にかけて残っている。頸部に調整痕がみられるほかは全体に笠で磨かれている。同住居址からは波状紋が施された壺の（1）破片もあることから、時期的には後期末の中島式土器と判断できる。

遺構に伴わないものとして壺の破片もある。（18図4）これも弥生時代後期末の中島式の土器である。それに対し、同時代の石器と判断したものは、大型の打製石斧で石歯とも呼ばれるものだが、（24図1他）古墳の葺石に使われていることが多かった。

3. 古墳時代

土器・須恵器・鉄器が古墳の周溝や墳丘から出土している。また、直接古墳に伴わず墓の中から出土した例もある。これらは、混入もしくは2次的な使用方法であろう。（実測図は茶柄山古墳群で掲載）

4. 奈良・平安時代

当該時代の土器としては確認できたものは、中世の火葬墓CGY-K12への混入と考えられる須恵器の壺は、底部のみであるが回転糸きりの跡がある。（実測図は茶柄山古墳群で掲載）

金属製品としては、道路址と判断されたCGY-SD03からは2種類の帶金具が出土した。（16図2,3）保存処理により、両方とも銅製で鍍金が施されていたことがわかった。帶金具の出土例はいずれも当該時期の集落周辺の墓や住居址からの出土がほとんどで、今回のような丘陵縁部では初めてである。

この道路跡は同段丘上にある平安時代の集落址である猿小場遺跡と段丘下に所在する同時期の久井遺跡を結ぶものと考えられる。

5、中世

ほとんどは火葬墓から出土したものであり、副葬品と考えられる。

陶器は藏骨器に使用されたものがほとんどであり、産地としては大部分が瀬戸とみられる。器形は四耳壺・三筋壺・瓶子が目立つ。

また、鉄器としては、棺桶を止めたと見られる釘が多く、そのほとんどは焼けている。

銭貨はすべて渡来銭と見られる。熱により溶けているものも目立つ。

(この他には城跡関連の堀、建物から出土したものについては、上の城跡編へ掲載)

6、近世・近代

陶磁器の中心は藏骨器である。それ専用に作られたものは江戸終末から明治期と見られる。その他は土壙墓に入れられた副葬品や溝址から出土したものがある。一方遺構に伴わなものもあった。

墓から出土した硯・砥石は、被葬者の職業に関係したものかもしれない。

鉄製品もやはり墓の副葬品がほとんどである。煙管・火打金・銭貨のほとんどは墓から出土している。また、日用品としての鉢・毛抜き・簪が納められている墓もあった。

陶磁器の破片には、かなり新しいものもある。墓域であり、居住区から離れていたこともある。使用できなくなったものの廃棄場所になっていたのであろう。

土壙墓（SK）出土の陶磁器等

遺構	図版	品名	産地	時期	備考
CGY SK 12	2-1	硯		不明	粘板岩製
SK 16	2-2	茶碗	瀬戸	江戸後期	
SK 17	2-3	茶碗	瀬戸	明治	破片
SK 26	2-4	煎茶茶碗	肥前(伊万里)	江戸中期	
SK 53	2-5	火鉢		不明	破片混入か
SK 56	2-6	茶入	瀬戸	16世紀代	藏骨器
UNJ SK 39	6-2	小皿	肥前(伊万里)	江戸中期	
SK107	6-3	土人形(布袋)		不明	磁器
SK108	6-4	茶碗	瀬戸	江戸後期	
SK120	6-5,6	土人形(狛犬・犬)		不明	形抜き。量産品である。
SK127	6-7	蓋	肥前(伊万里)	江戸中期	珍しい模様。供物専用か
SK214	6-8	四耳壺	古瀬戸	中世	上部に中世の墓のあった可能性も
	9	小皿	瀬戸	中世	

火葬墓（SI）出土の陶磁器等

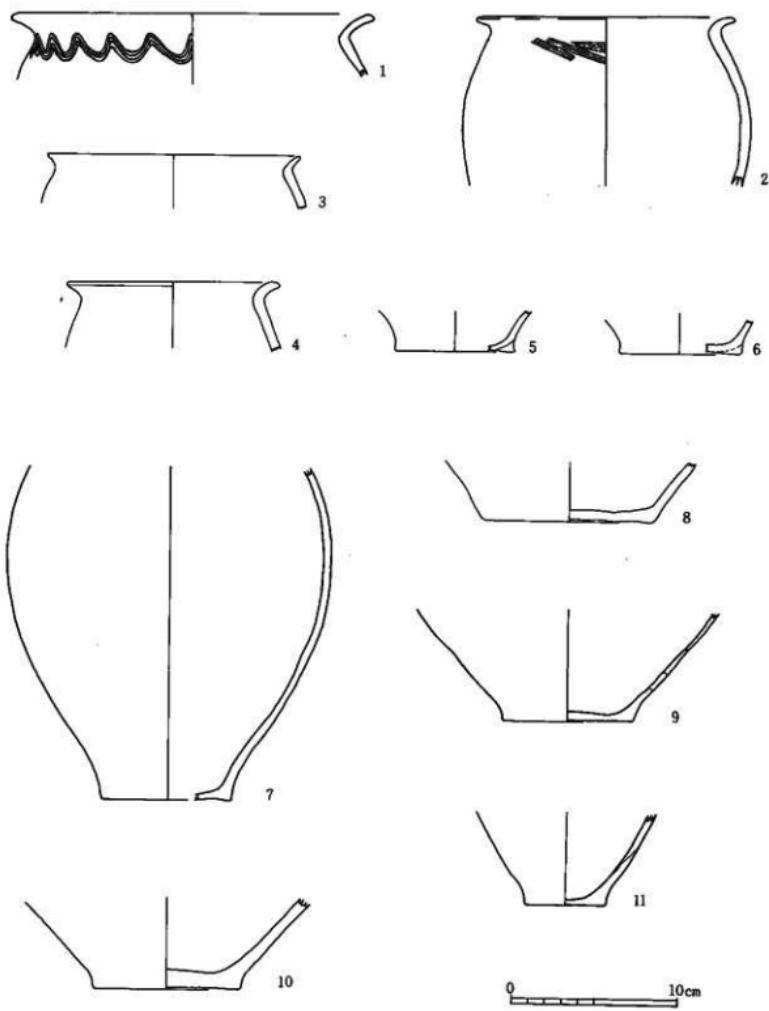
遺構	図版	品名	産地	時期	備考
CGY SI 2	11-1	擂鉢	瀬戸	16世紀代	
UNJ SK214	6-8	四耳壺	古瀬戸	不明	蔵骨器
	44	水注	古瀬戸	16世紀末	蔵骨器
SI 9	11-3	四耳壺	古瀬戸	14世紀	蔵骨器(一体分の骨が入っていた)
〃	-4	瓶子	古瀬戸	15世紀代	蔵骨器
〃	-5	茶入	瀬戸	15 〃	
SI 9	12-1	甕	常滑	14 〃	蔵骨器
10	-2	甕	常滑	14 〃	蔵骨器
24	-5	卸皿	瀬戸	不明	

溝址（SD）出土の陶磁器等

遺構	図版	品名	産地	時期	備考
CGY SD 5	14-3	茶碗	瀬戸	江戸末	
5	4	茶碗	〃	〃 末	
10	6	皿	〃	〃 後	
10	8	茶碗	〃	〃 後	

遺構外出土の陶磁器等

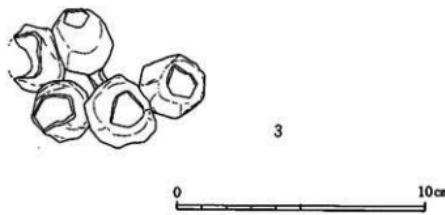
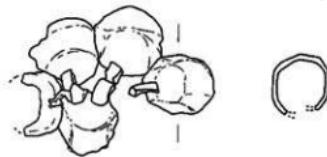
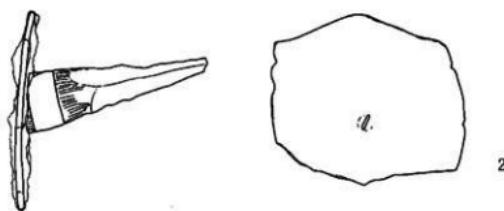
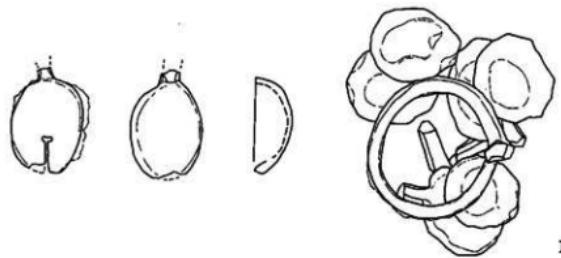
遺構	図版	品名	産地	時期	備考
CGY 外	17-1	瓶子	古瀬戸	14世紀代	藏骨器 印花あり
	2	四耳壺	古瀬戸	14 ノ	藏骨器
	3,4,5	短頸壺(素焼)		不明	藏骨器
	6	三筋壺	古瀬戸	14世紀代	藏骨器
	7	梅瓶	ノ	14 ノ	藏骨器
	8	花瓶	ノ	中世	藏骨器 鉄釉
	18-7	そば猪口	瀬戸	江戸末期	
	8	茶碗	ノ	ノ	
	9,10	蓋付壺(磁器)	不明	不明	藏骨器
	11	小皿(磁器)	瀬戸	江戸後期	
	14	火鉢	不明(在地)	不明	素焼き 廃棄
UNJ 外	20-4	壺	常滑	14世紀代	藏骨器 口縁のみ
	-5	四耳壺	古瀬戸	14世紀後半	藏骨器
	-6	三筋壺	ノ	15世紀初め	藏骨器
	-7	向付	瀬戸	江戸後期	
	-8	小鉢	ノ	ノ	
	-9	壺	瀬戸	不明	藏骨器 鉄釉
	21-1	小皿	ノ	江戸後期	
	-2	土瓶	瀬戸	17世紀後半	藏骨器
	-3	壺(素焼)	不明	不明	藏骨器(蓋なし)
	-4,5	蓋付壺(素焼)	ノ(在地)	ノ	藏骨器
	-6,7	蓋付壺(磁器)	ノ	ノ	藏骨器
	8	灯明皿	瀬戸	明治	



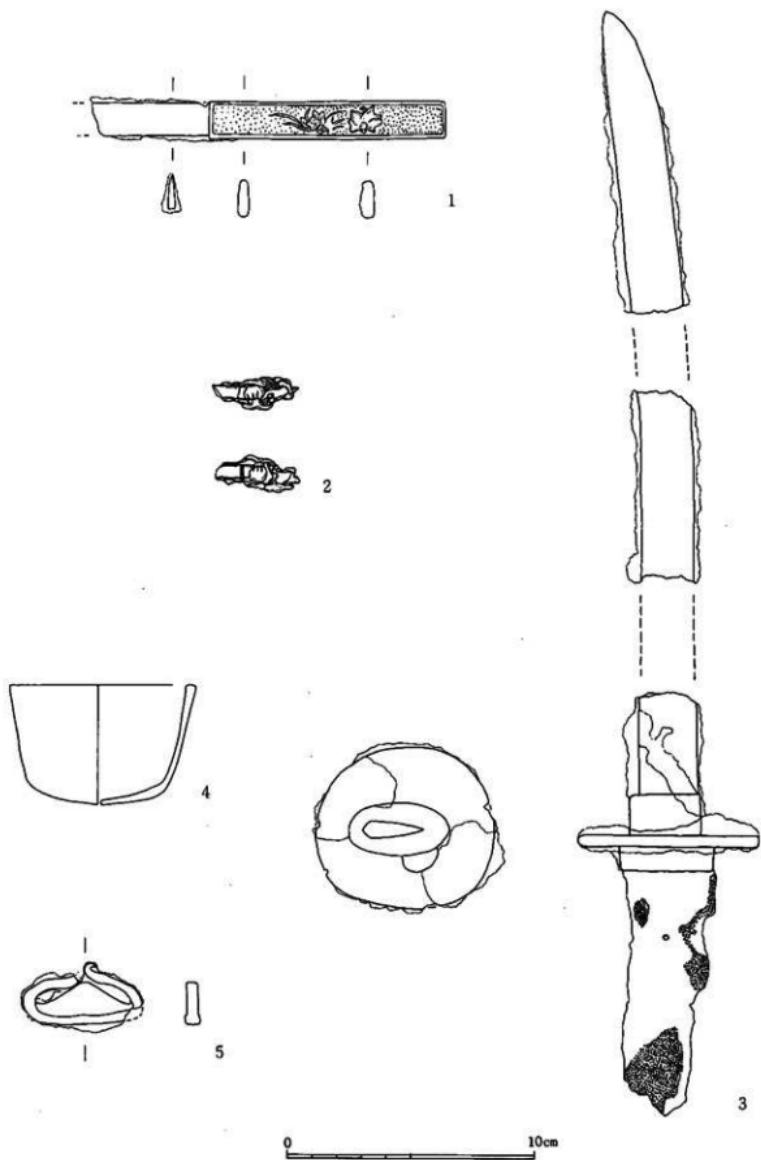
挿図 1 CGY 1~11 SB01



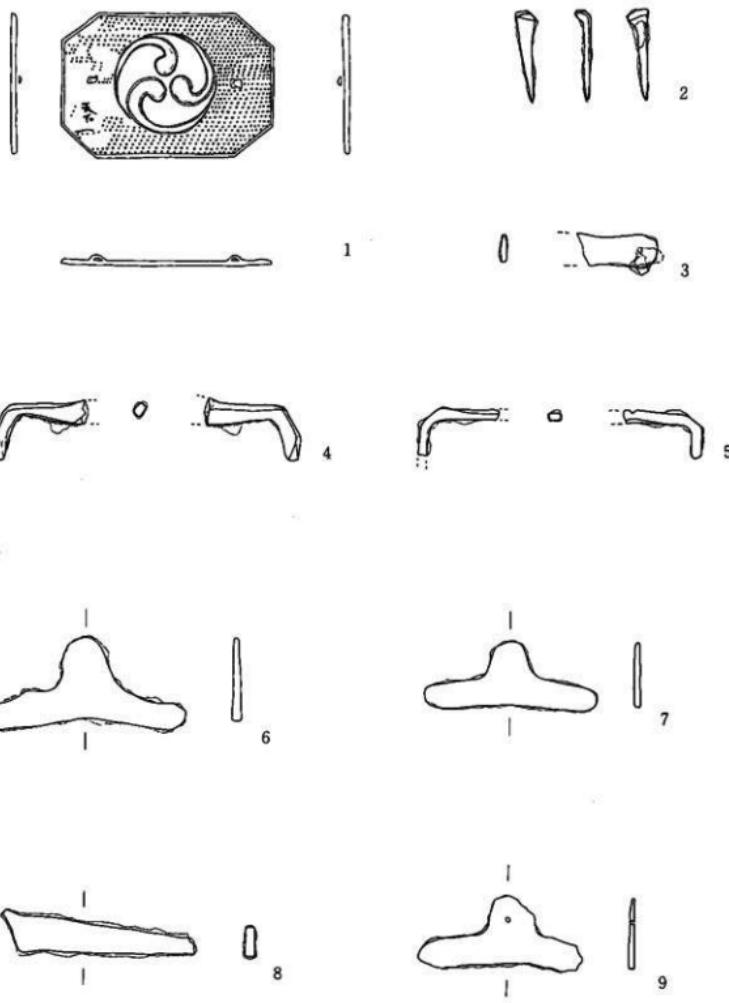
挿図2 CGY 1 SH02 4 SK16 7 SK53
2 SM02 5 SK17 8 SK56
3 SK12 6 SK26 9 SK69



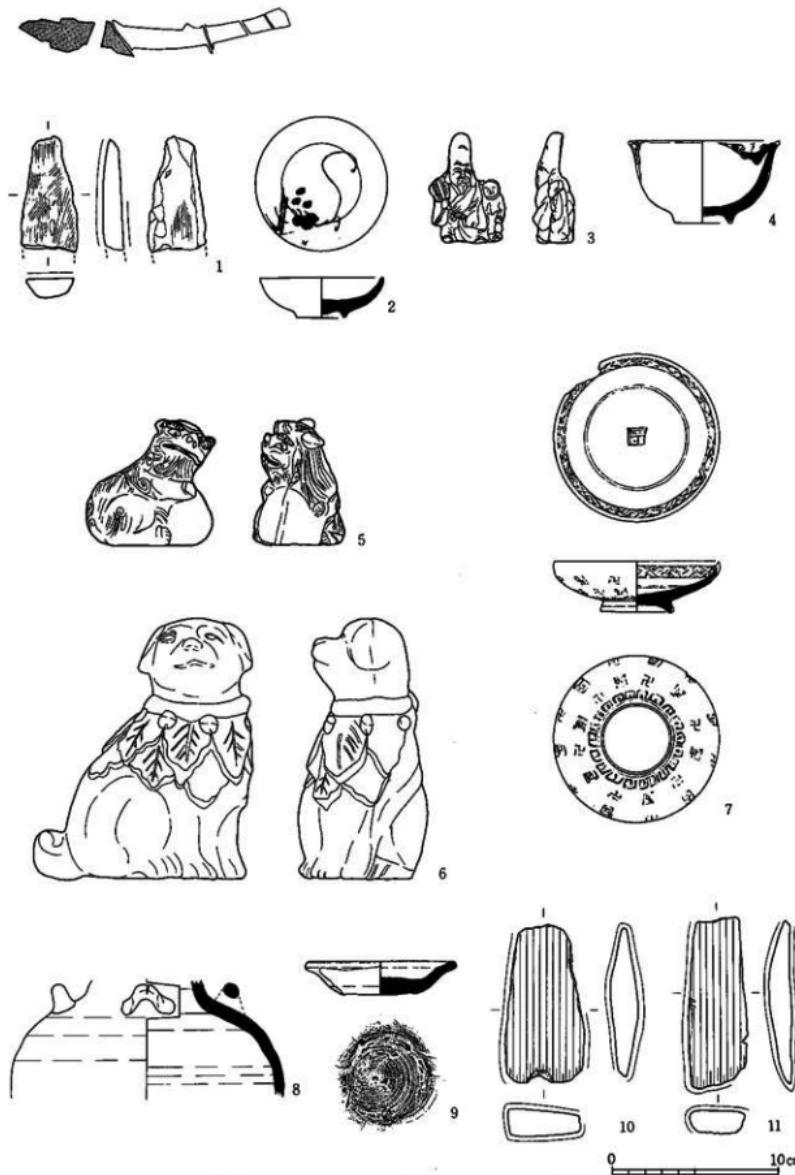
擇図3 CGY 1. 2 SK7 3 SK11



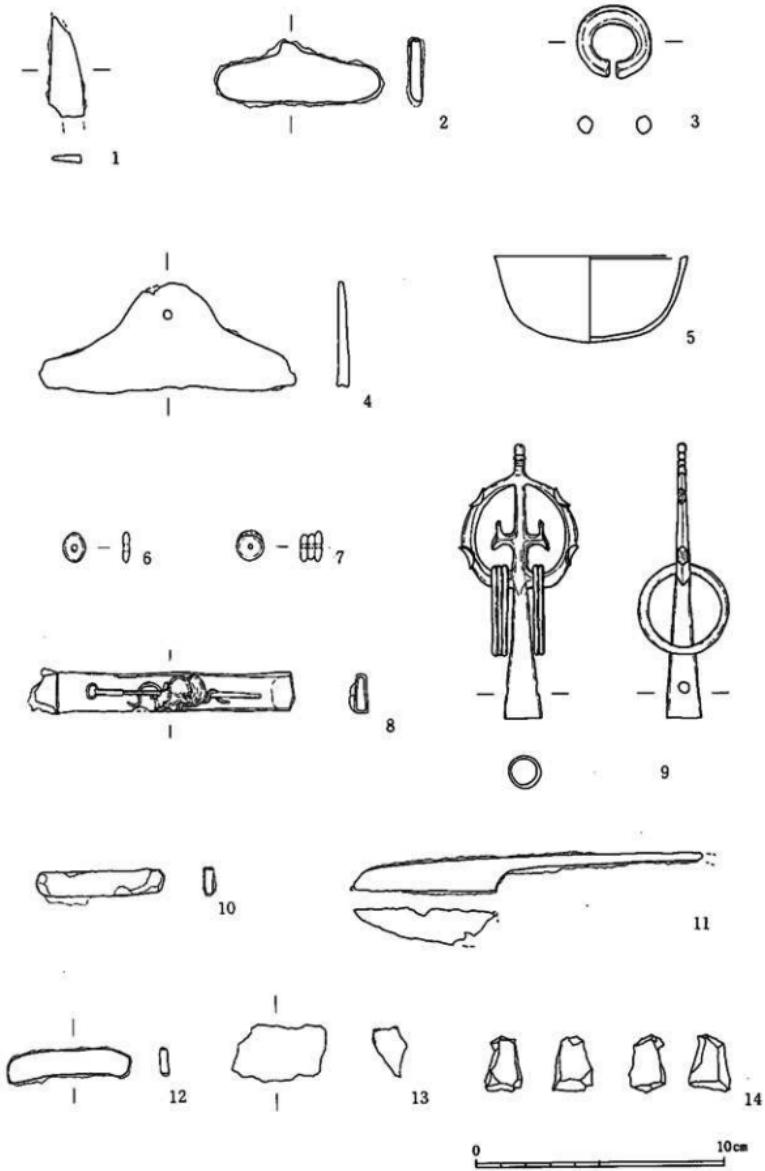
插図4 CGY 1~5 SK12



挿図 5 CGY 1 ~ 5 SK12 8 SK39
6 SK27 9 SK77
7 SK30

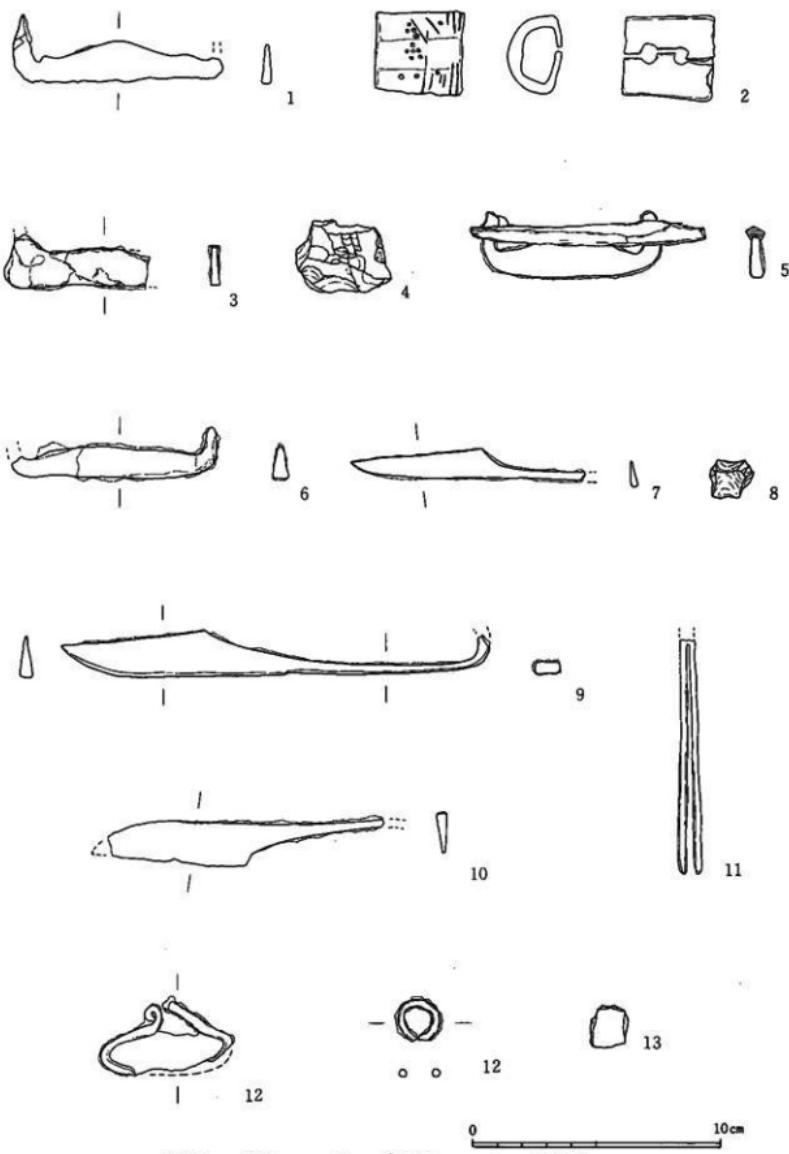


挿図6 UNJ 1 SK28 5・6 SK20
2 SK39 7 SK127
3 SK107 8・9 SK214
4 SK108 10・11 SK281



挿図 7 UNJ

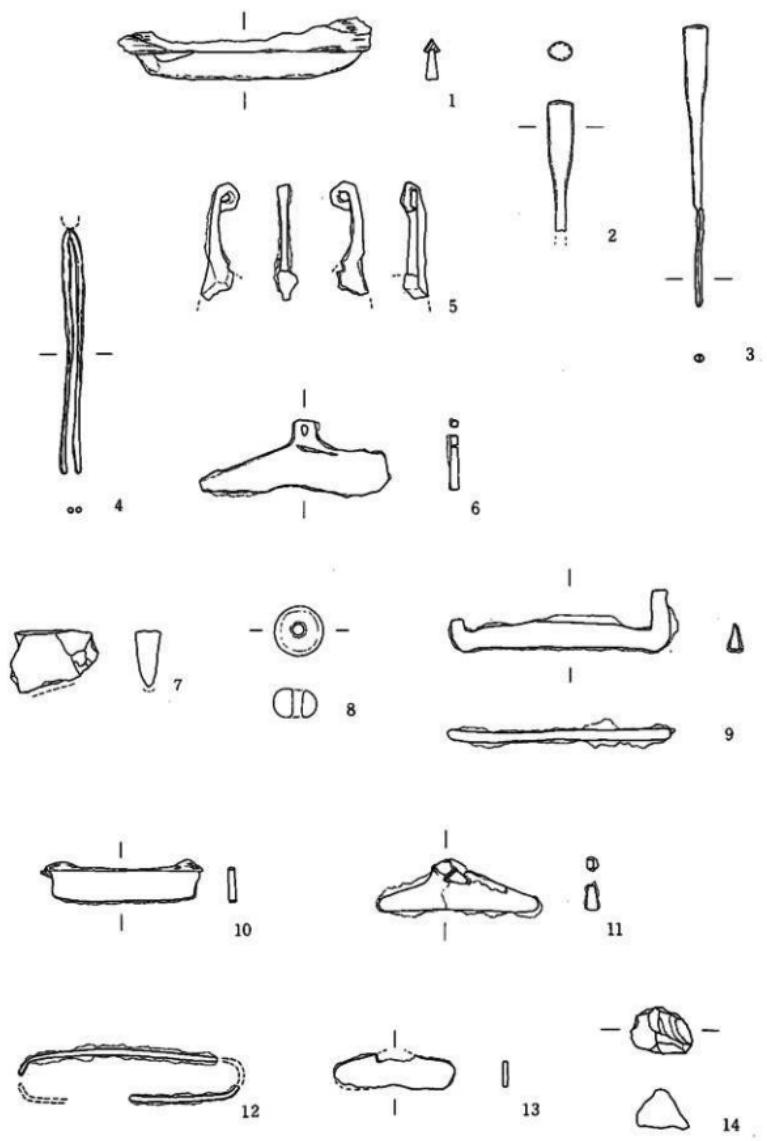
1	SK30	5 ~ 9	SK82
2 ~ 3	SK39	10	SK100
4	SK58	11 ~ 14	SK105



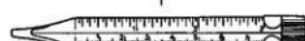
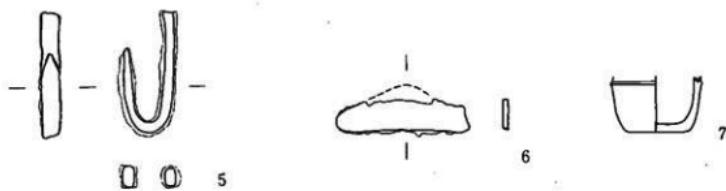
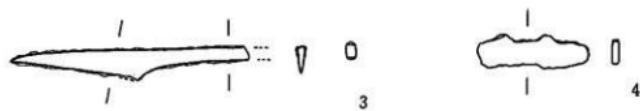
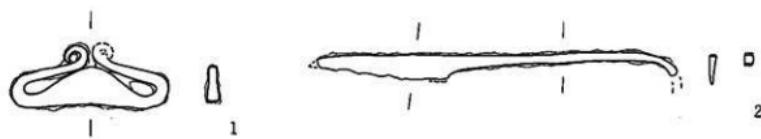
插図 8 UNJ

1	SK106	6	SK121
2	SK107	7・8	SK122
3・4	SK109	9～11	SK125
5	SK119	12～14	SK128

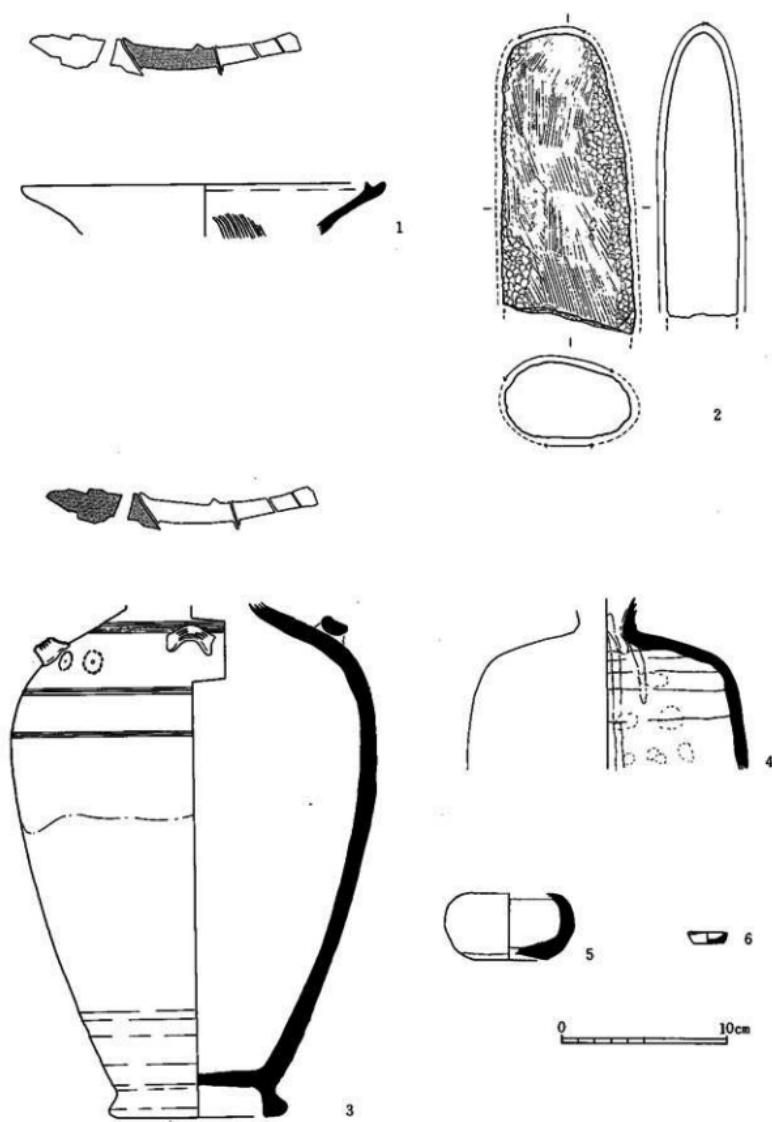
0 10cm



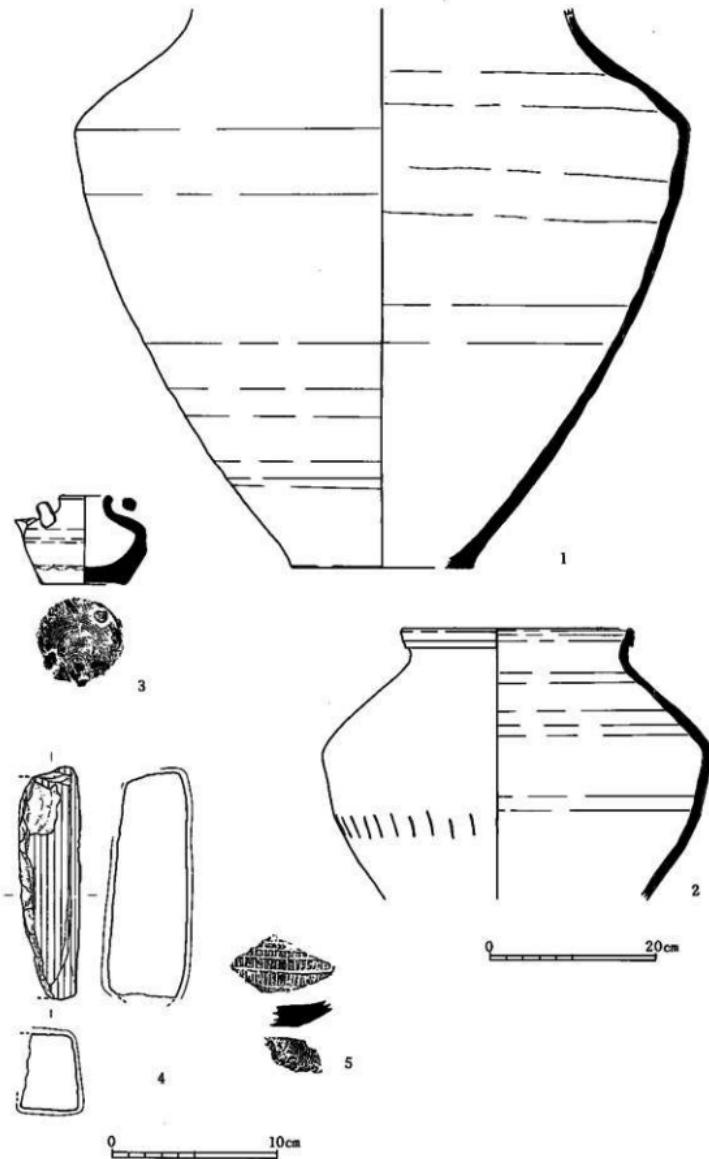
挿図 9 UNJ
 1 SK134 8 SK145 12~14 SK170
 2・3 SK138 9 SK152
 4~6 SK142 10 SK153
 7 SK143 11 SK158



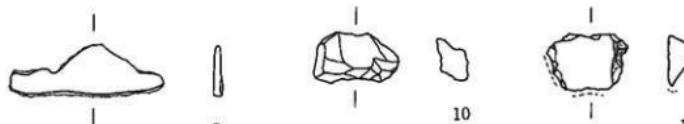
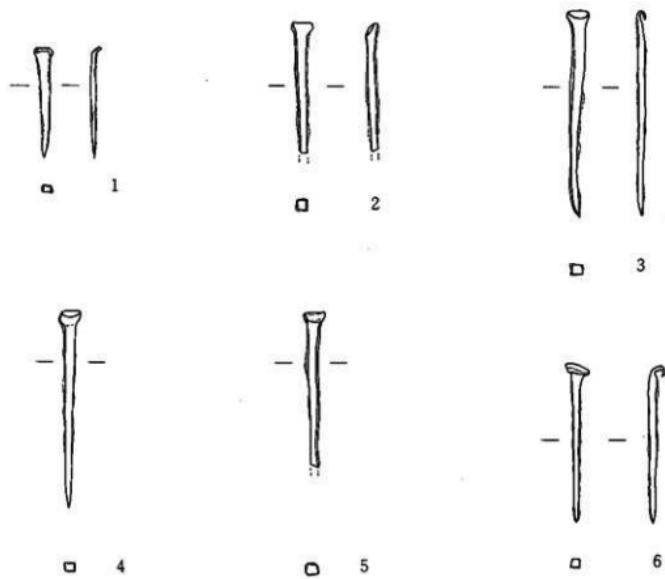
挿図10 UNJ 1 SK174 6 7 SK209
2~4 SK187 8 SK212
5 SK188



挿図11 1 CGY SI 2
2 CGY SI 7
3~6 UNJ SI 9

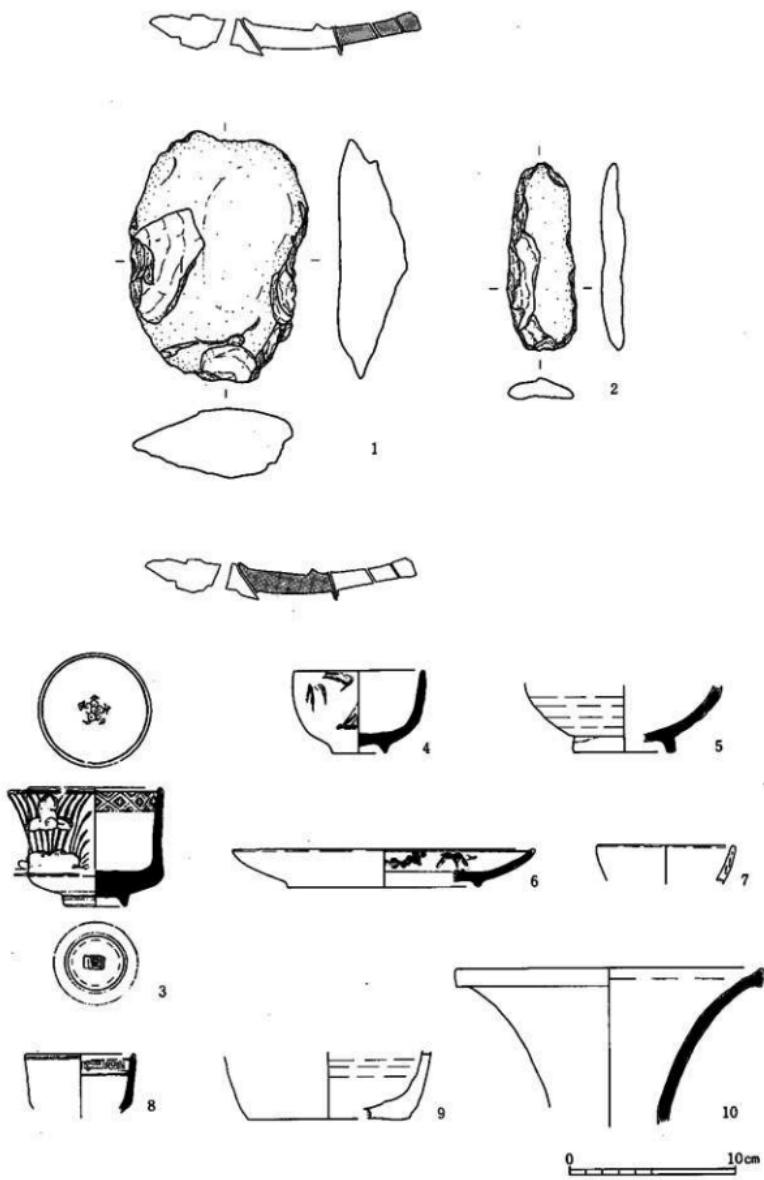


挿図12 UNJ 1 SI09 3 SK44 5 SI24
2 SI10 4 SI13

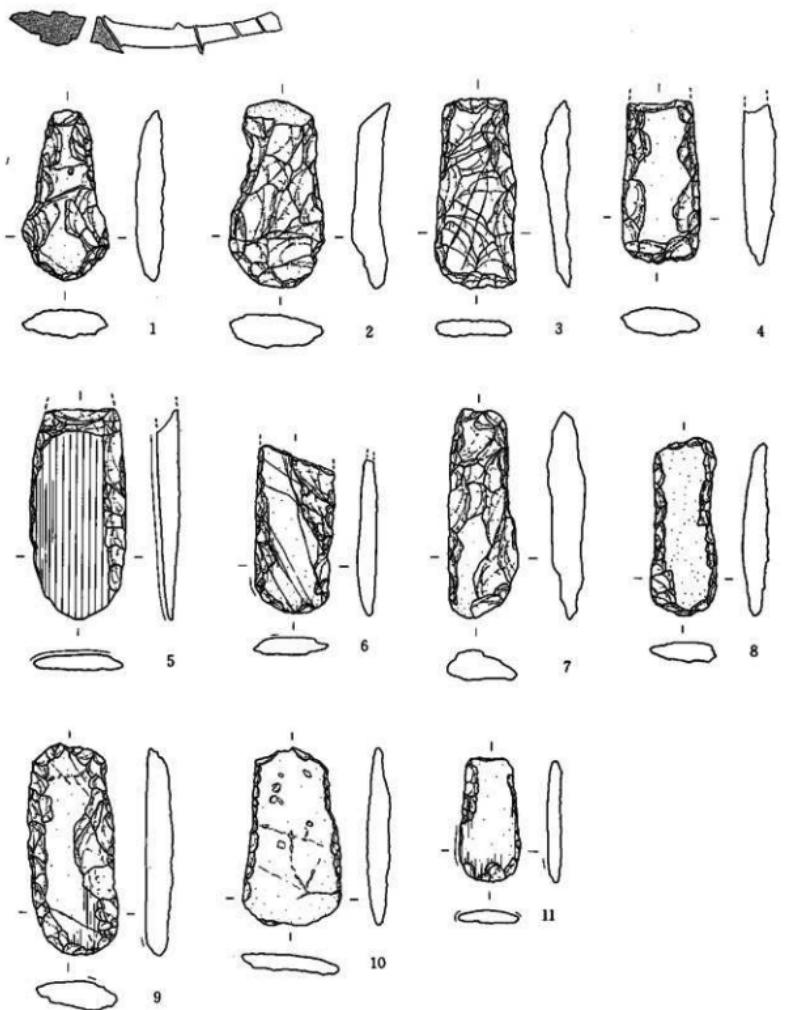


0 10cm

挿図13 CGY
UNJ 1~5 SI15
7~11 6 SI19
遺構外

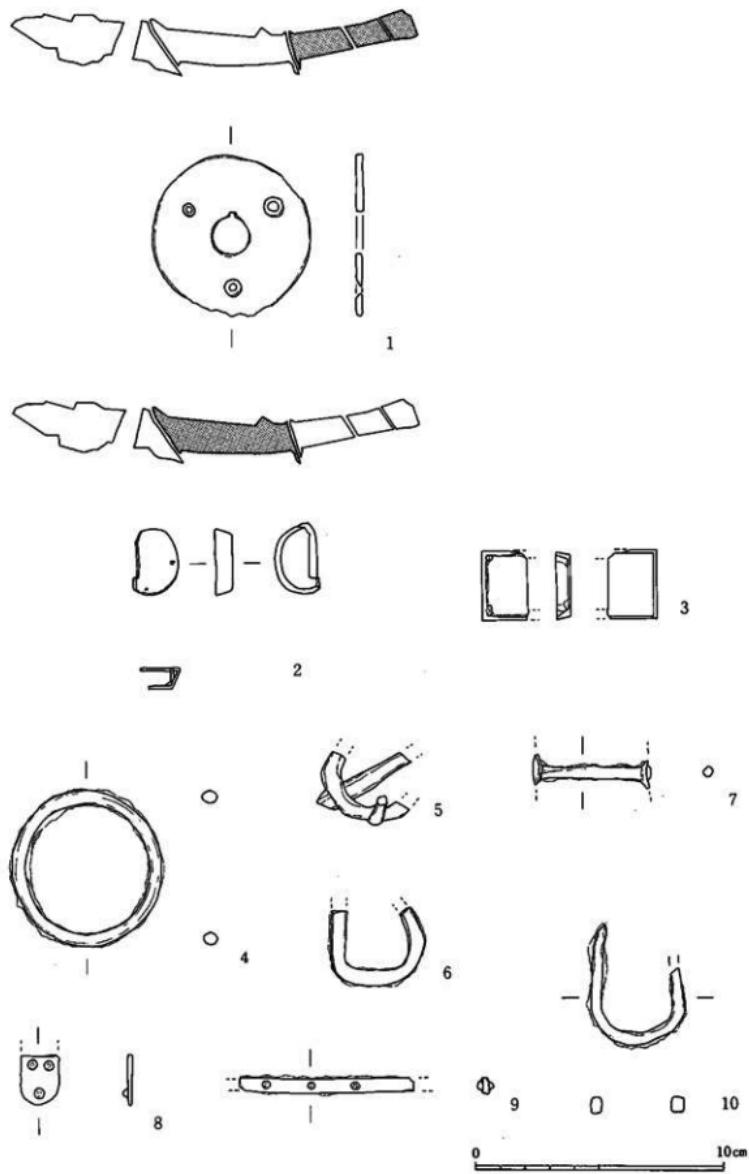


挿図14 MKH 1 SD07 2 SD11 CGY 3~5 SD05 6~8 SD10 9・10 SD11

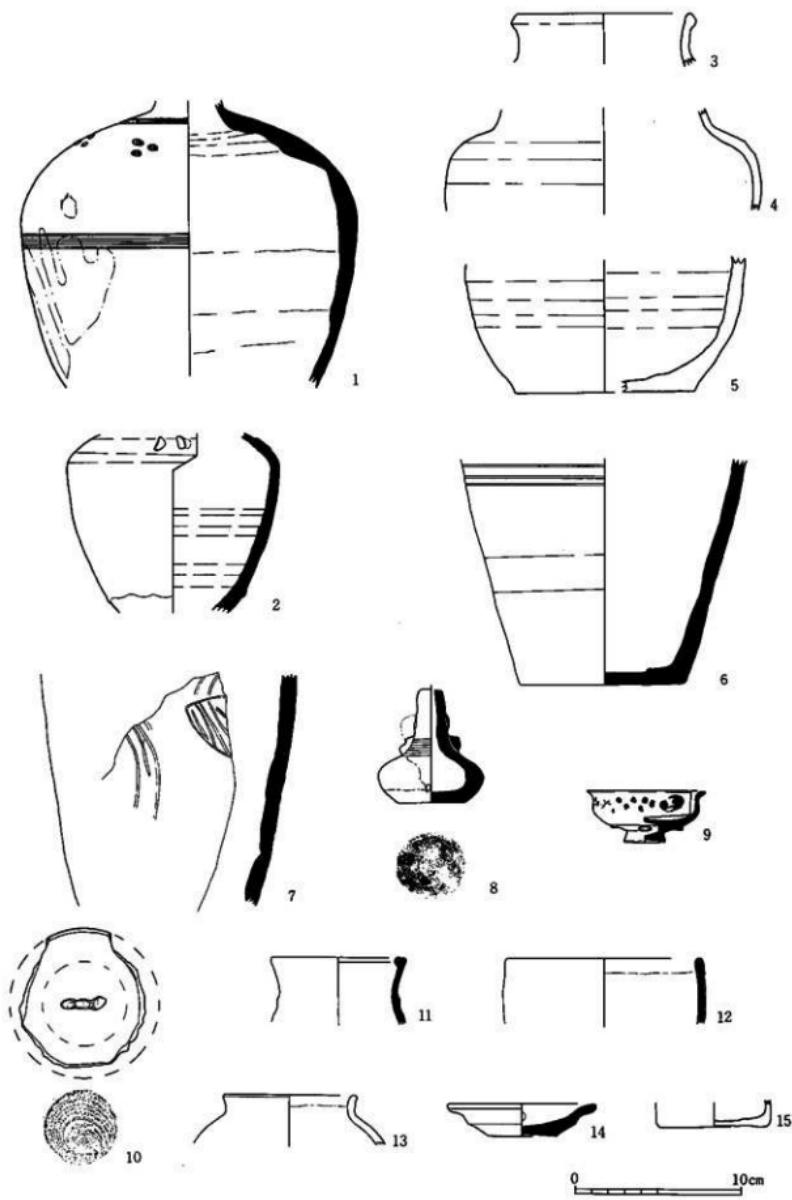


0 10cm

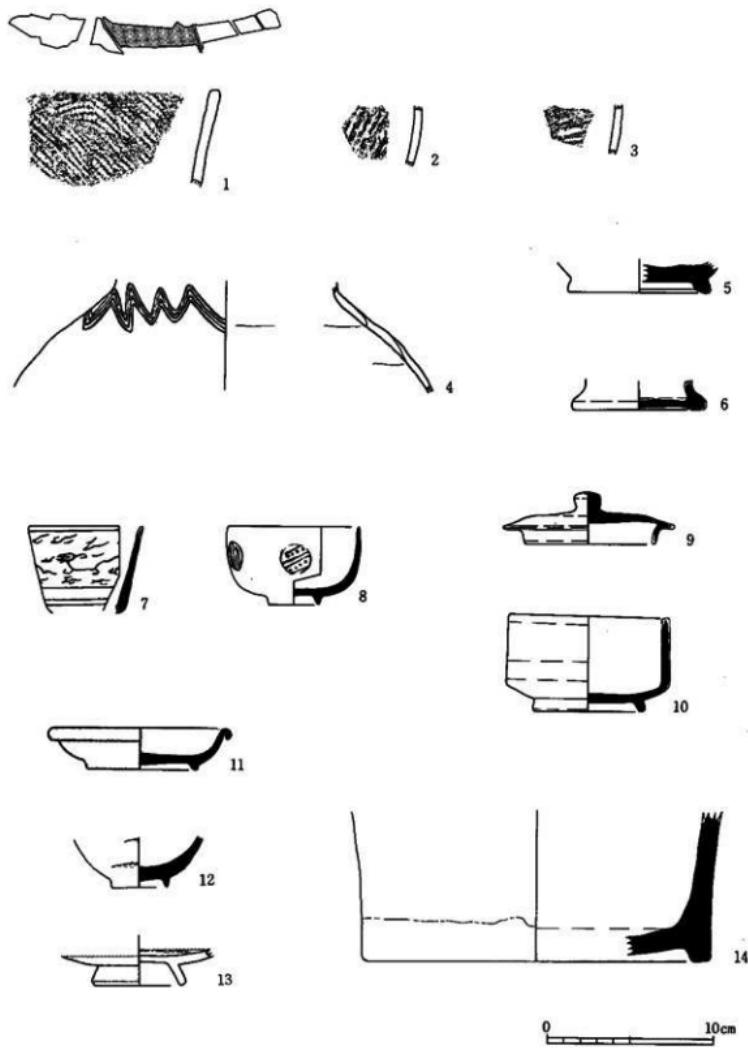
挿図15 UNJ 1 SD01 7・8 SD07
2～5 SD02 9 SD16
6 SD04 10・11 SD18



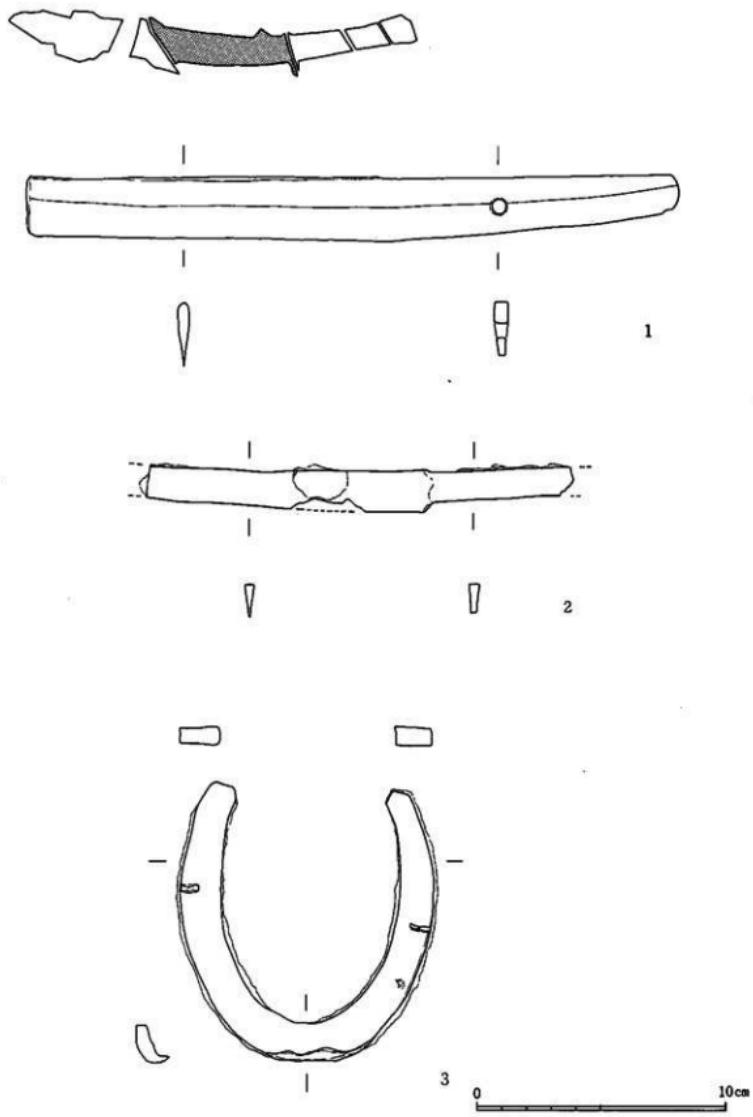
挿図16 1 MKH SD03
2・3 CGY SD03
5~10 CGY SD06



擲図17 CGY 1~15 造構外



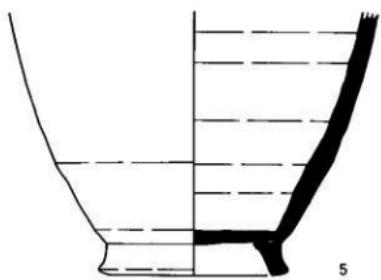
挿図18 CGY 1~14 造構外



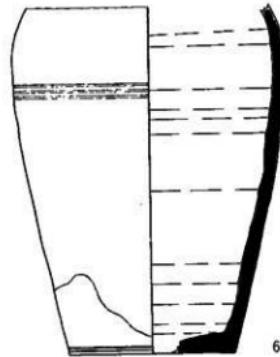
擗圖19 CGY 1~3 遺構外



4



5



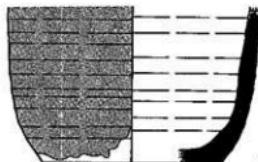
6



7



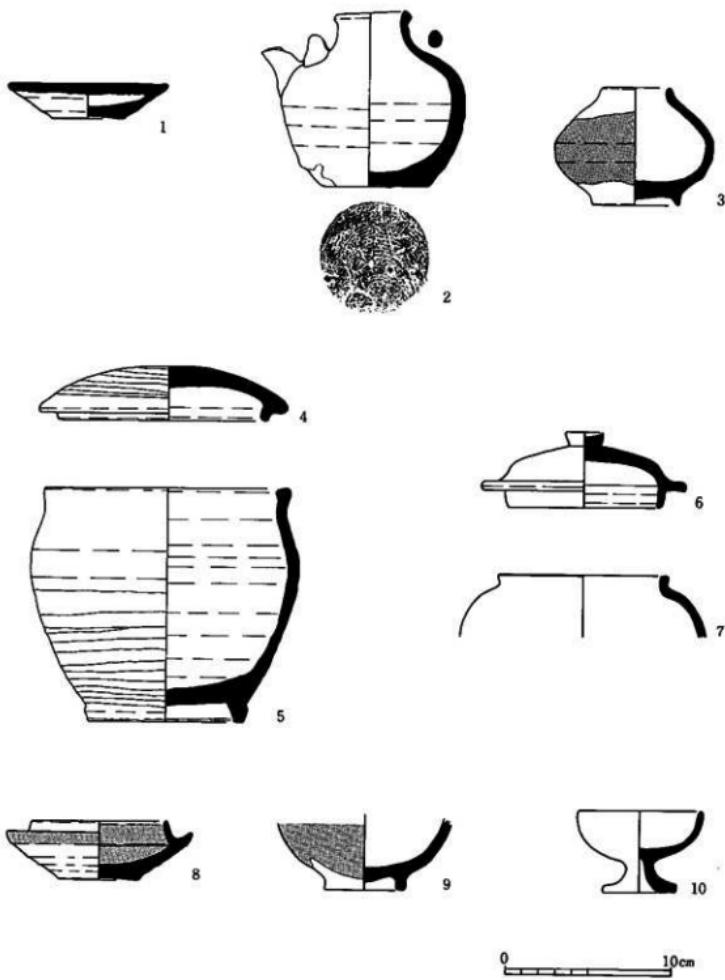
8



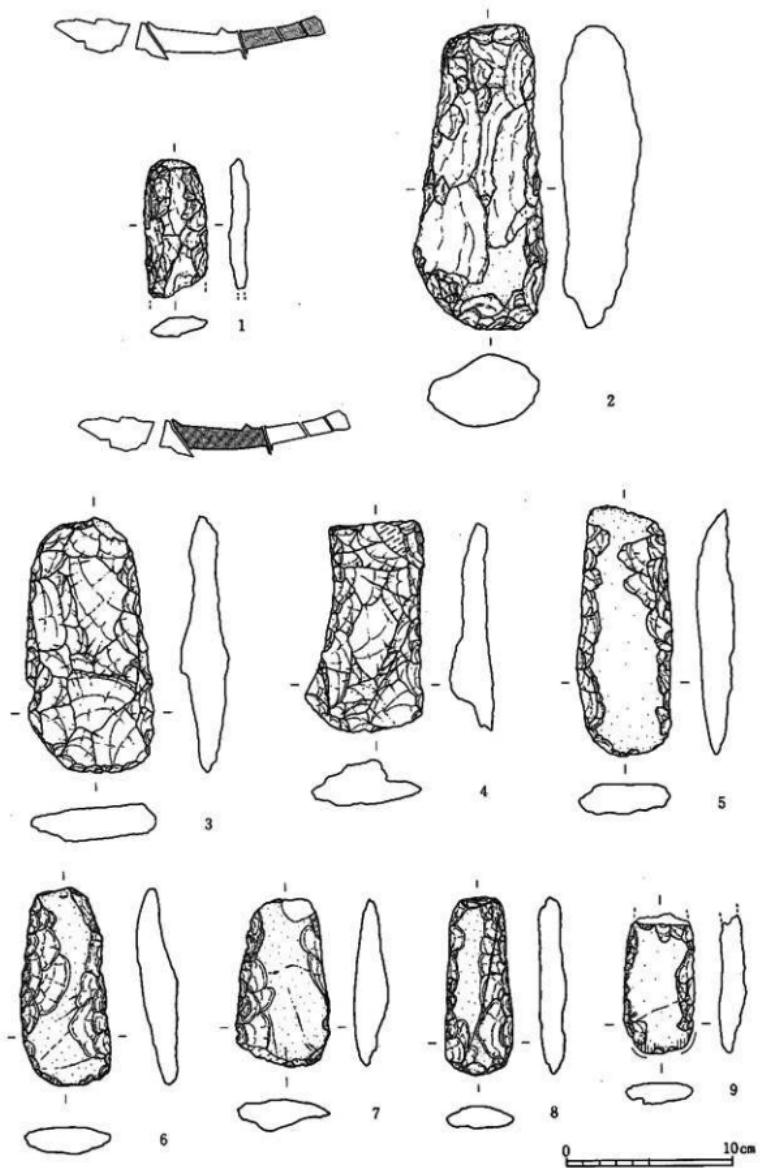
9

0 10cm

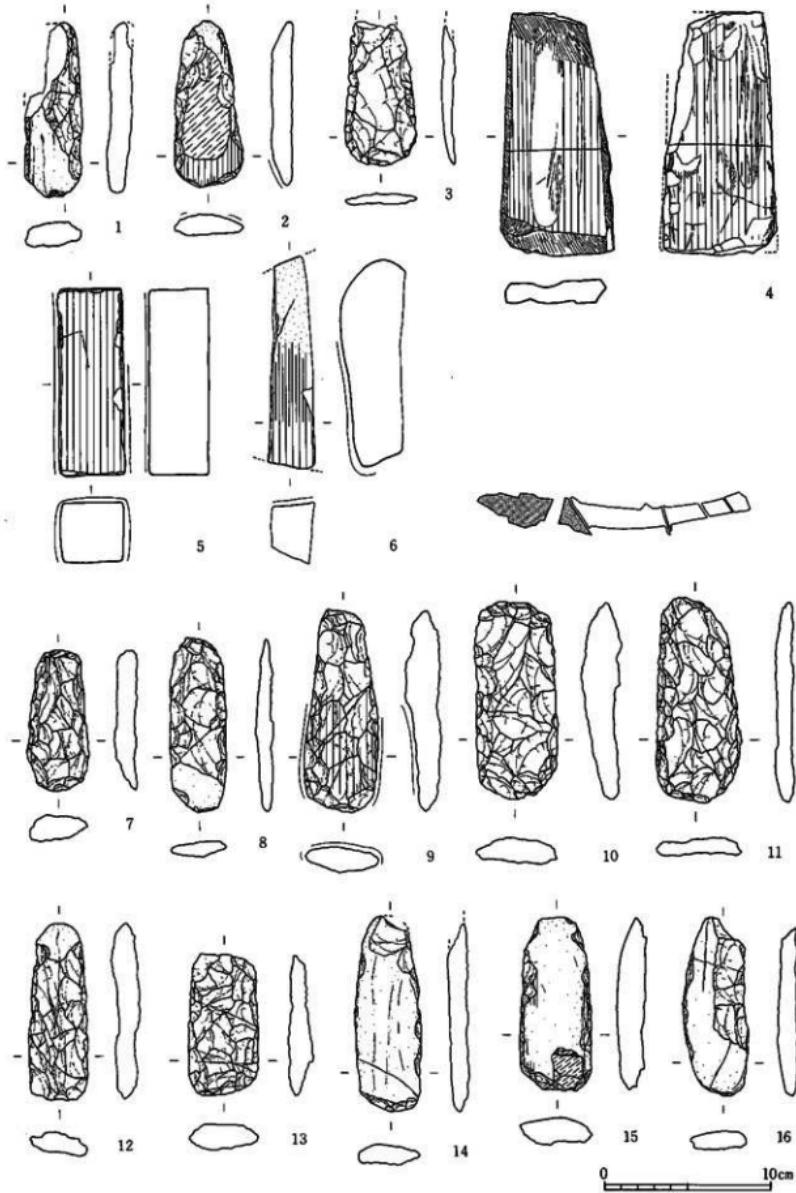
挿図20 UNJ 1~10 造構外



插図21 UNJ 1~10 造構外



挿図22 1～2 MKH 造縄外
3～9 CGY 造縄外



插図23 1~6 CGY 造構外
7~16 UNJ 造構外

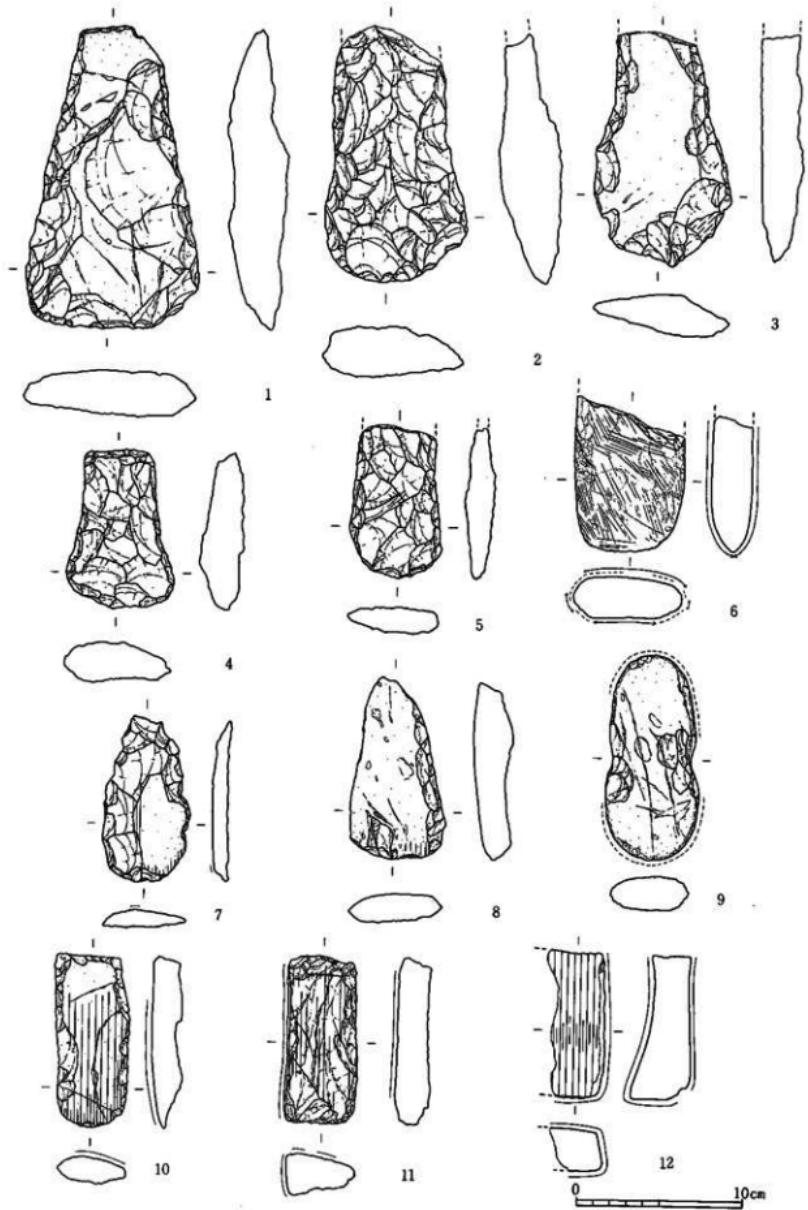


插图24 1~12 UNJ 造構外

喫 煙 具

(1) 煙管 (キセル)

煙管は火皿と火皿から羅宇に至る狭義の首部から形成されている。これら各部の形態および製作工程が時間的に変化する。(古泉 弘『江戸を掘る』)

第I段階 煙管の初現形態をしめす。火皿下の脂返しが一旦下方へ大きく湾曲し、ラウにとりつく部分が一段太く巻かれた「肩付」となる。火皿と首部の接合部には補強帯が巻かれる。

16世紀末から17世紀初頭。

第II段階 脂返しが大きく湾曲する「河骨形」という形態をとる。肩付。補強帯をもつ。

17世紀前半

第III段階 河骨形。補強帯が巡るが、首部は火皿の下からラウ接合部まで一枚の銅板を巻いて製作される。

17世紀後半

第IV段階 河骨形。補強帯は消失する。18世紀前半

第V段階 脂返しの湾曲が小さくなる。18世紀後半

第VI段階 火皿は小型化し、逆台形を呈する。脂返しの湾曲はほとんどなくなり、火皿の下に直角にとりつくようになる。19世紀

煙管の変遷には一貫性が認められる。原因として考えられること

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① 火皿が小型化すること | 煙草の葉の刻み方が細かくなる |
| ② 脂返しの湾曲が減少し、直線的になること | 機中・携帯の便 |
| ③ 各部の接合工程が減少すること | 製作技術の向上 |

(2) 火打ち金

今回の調査で基より出土した火打ち金の形態は次のとおりである。

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| I 吊り下げ型 A | 穴のあいたつまみがある。(穴に紐を通した) |
| B | 両端を引き延ばし中央上部に曲げたもの(曲がったところに紐を掛ける) |
| II 台木につける | 両端を木材に突き刺し固定したもの |

煙管との共伴関係から時代を考察してみたい。煙管の形態は上記の編年による。

出土遺構	火打金の形態	煙管の形態	出土遺構	火打金の形態	煙管の形態
CGY SK 12	I - B		UNJ SK 121	II	V(18C後)
SK 27	I - A	IV(18C前)	128	I - B	IV(18C前)
SK 30	I - A	IV(18C前)	134	II	V(18C後)
SI 58	I - A		142	I - A	
SK 77	I - A	V(18C後)	152	II	VI(18C前)
UNJ SK 39	I - A	IV(18C前)	153	II	
	58	I - A	158	I - A	V(18C後)
	82	I - A	170	I - A	IV(18C前)
		IV(18C前)			

出土遺構	火打金の形態	煙管の形態	出土遺構	火打金の形態	煙管の形態
UNJ SK 106	II		UNJ SK 174	I - B	
109	II		187	I - A	V (18C後)
119	II	V (18C後)	209	I - A	

煙管と火打金が一緒に出土した例は今回確認した近世の墓のうちのごくわずかでしかない。また、火打金のみが出土しているものを入れても22例しかない。それらの時期は18世紀代に限られていることに注目したい。これがなにを示すのかは、他の調査の結果を待たないと結論は出ない今後の課題であろう。

共伴する類例が少ないため断言はできないが、煙管との組み合わせを見る限り火打金の形態はI - B・I - A・IIへと変化しているように見える。その変化は煙管の変化より時間がかかっていることがわかる。時代でいえばI - Bが18世紀前半からみられ、I - Aに移るのが18世紀中頃から後半にかけて、IIへ変わるのは18世紀末ころから19世紀まで及んでいるのではないだろうか。

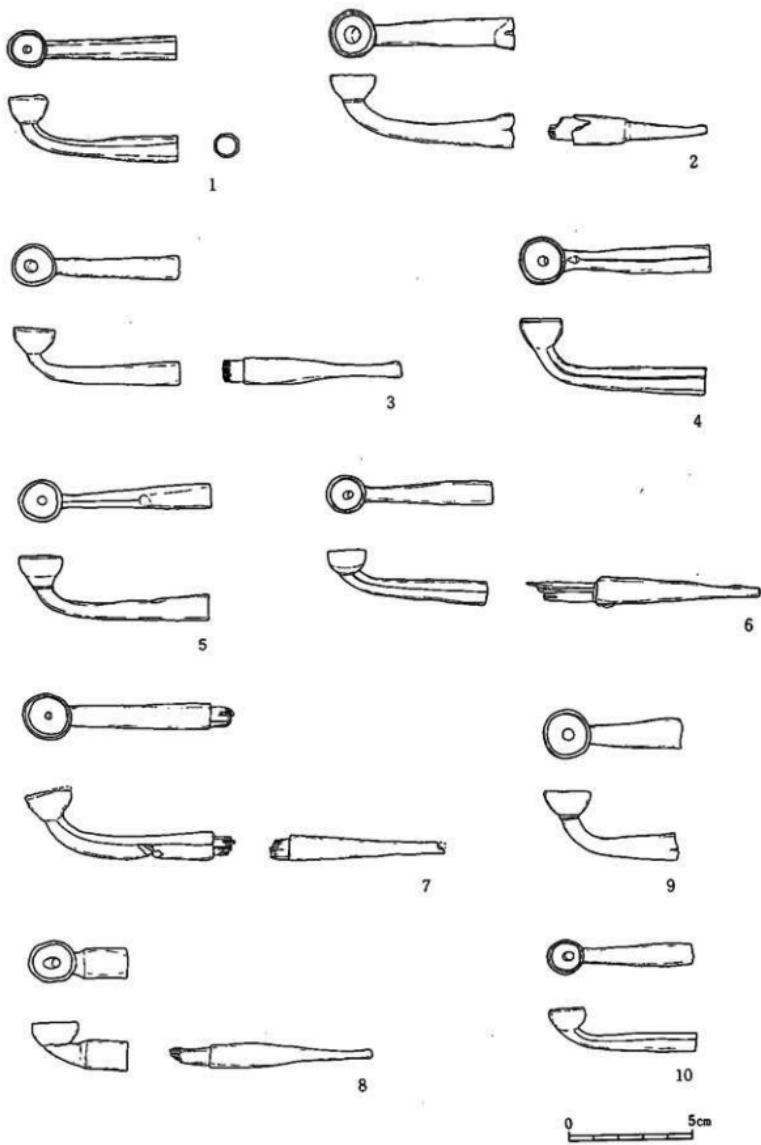
(3) 火打石

火打金の出土したが確認できた墓壙は9基と少なかった。出土した石の大きさは2~4cm、断面形が三角形になるように割られている。石材は長石がほとんどである。火打金とセットで使用されたものと考えられるが、実際は火打金のみの出土が目立ちセットで出土したのは4個に止まった。

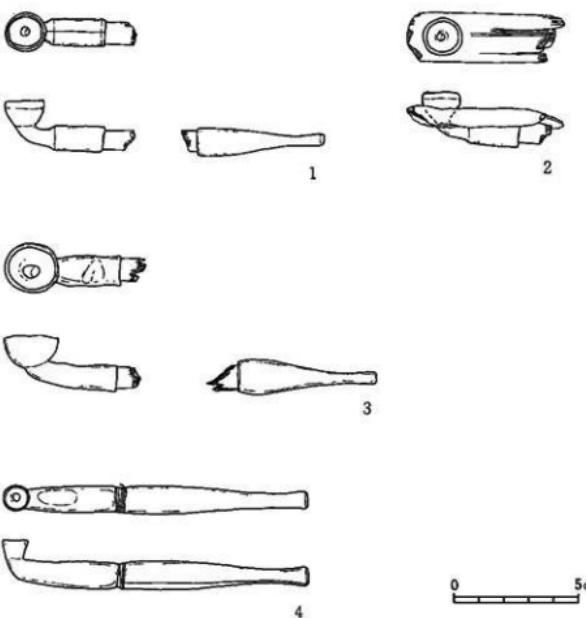


茶柄山地籍出土煙管

SK No.	雁首／吸口		火皿 径	材質	時期	羅字	備考及び、その他の遺物
	徑	長さ					
7	1.00/	5.8/	1.4	銅	17後~18		土師器片
8	1.15/1.05	7.5/5.4	1.9	銅	17後~18	△	
12	0.96/0.96	6.8/6.3	1.7	銅	17後~18中	△	鉄製品・鎧・刀・硯・軸の残る頭の長い壺
26	0.90/1.10	6.7/6.5	1.6	銅	18後	△	鏡（横長の八角形の銅版に三つ巴の紋様、両側に紐が2つ付く）
〃	0.98/	7.6/	1.8	銅	17後		寛永通寶8・永樂通寶1・正隆元寶1
〃	1.00/	7.7/	1.8	銅	17後~18前		煎茶茶碗（肥前磁器）
27	1.05/0.98	7.5/6.3	1.9	銅	17後~18中	△	火打金・寛永通寶
29	1.07/1.32	4.0/6.5	1.9	銅	18中~19	△	
39	1.15/	5.6/	1.9	銅	17後		
46	1.05/1.15	4.0/5.1	1.5	銅	17中	△	(雁首に木製の覆)
78	0.85/	5.8/	1.4	銅	17後~19中	△	
外	1.06/1.10	4.5/7.4	1.0	銅	19代	○	
K3	1.18/0.90	4.6/5.6	2.1	銅	19前	△	



挿図25 CGY 1 SK7 4~5 SK26 9 SK35
2 SK8 7 SK27 10 SK78
3 SK12 8 SK29

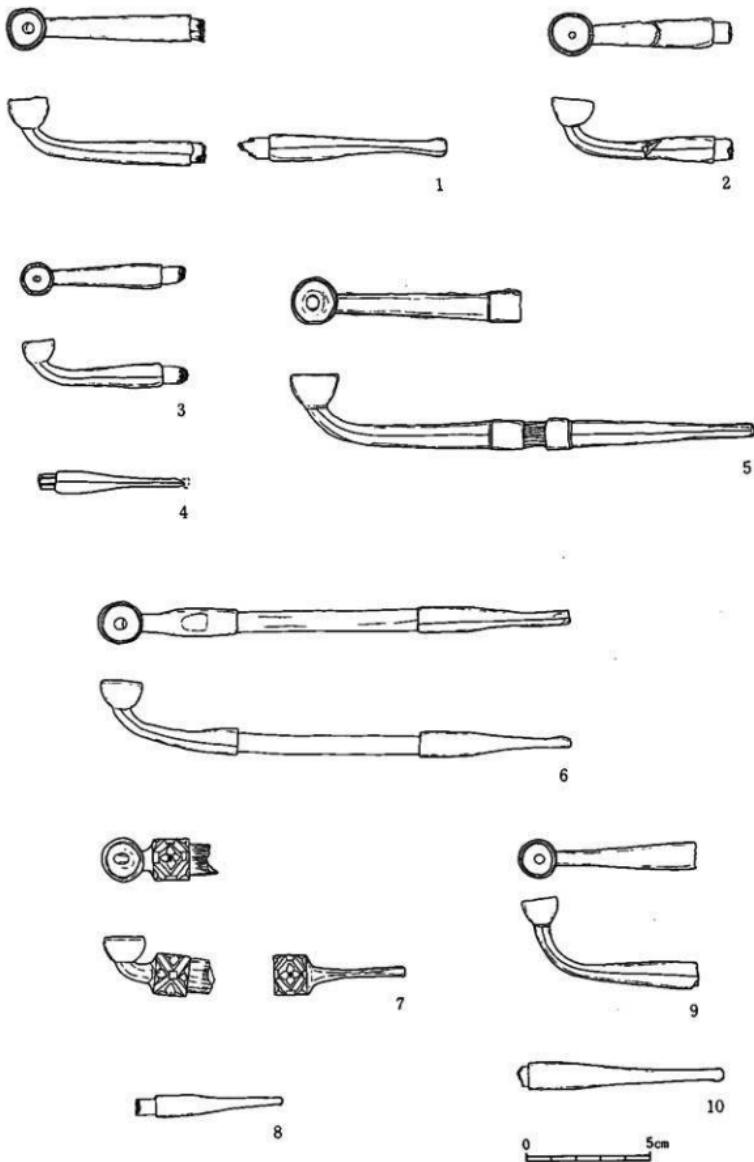


擲団26 CGY SK46 (1・2同一個物)
K3 (3)
外 (4)

上の城遺跡SK出土煙管

SK No.	雁首／吸口		火皿 径	材質	時期	羅字	○完全 △一部	備考及び、その他の遺物
	径(cm)	長さ						
28	1.00/1.05	7.3/7.1	1.5	銅	18前	△		打製石斧
30	1.08/	6.6/	1.8	銅	18前	△		火打金
//	1.15/	5.6/	1.3	銅	18前	△		
32	/0.93	/(5.2)		銅		△		
39	1.13/1.15	9.2/8.4	1.9	銅	17前	○		火打金
52	1.05/1.05	5.6/6.1	1.8	銅	18中	○		
69	1.65/1.65	3.5/5.3	1.6	銅		△		銀メッキ、毛彫りの紋様
72	/0.90	/5.1		銅	18前	△		小型
76	1.08/	7.2/	1.5	銅	17前	△		
	/1.14	/7.8		銅		△		
77	1.10/1.10	6.6/6.5	1.9	銅	18中～後	△		
82	1.05/1.05	6.0/5.6	1.6	銅	18前	△		火打石・小柄・鈴・錫・数珠
83	1.05/1.10	5.7/4.8	1.8	銅	18後	△		
85	1.13/1.07	5.8/5.9	1.7	銅	18前	△		
88	1.15/	3.5/	1.6	銅	19代	△		火打石
90	1.10/0.86	6.0/7.0	1.6	銅	18後	△		
94	1.05/1.10	7.0/8.2	1.4	銅	19初	△		
96	1.36/1.03	3.7/4.8	1.3	銅	19代	△		俵型の雁首
97	0.97/	6.4/	1.8	銅	18後	△		
//	1.20/1.15	4.5/7.8	1.6	銅	19代	△		
98	1.16/1.04	4.6/(4.2)	1.9	銅	19代	△		
99	0.96/0.96	4.9/5.2	1.4	銅	18後～19	△		
100	1.00/1.00	6.5/6.5	1.7	銅	18後	△		火打金
101	1.06/1.06	7.0/8.2	1.6	銅	18後	△		
104	/1.15	/10.7		銅	18代	△		毛彫り、梨子地に紋様を描く
105	/1.12	/5.9		銅	18後	△		火打石2・火打金・錫
107	/1.16	/4.4		銅	19代			象牙根付・福禄寿・打製石斧
108	1.20/1.18	6.7/7.3	1.7	銅	18前	△		
109	1.20/1.20	4.7/5.4		銅	18～19代	△		吸口に線で紋様を描く。火打石・火打金・笄・染付片
112	/0.89	/7.8		銀	時期不明	△		毛彫りで牡丹のような紋様を描く。
113	1.15/	3.6/	1.4	銅	19初	△		
115	1.15/1.12	5.5/7.0	1.8	銅	18後	△		
118	1.13/1.19	7.0/8.2	1.8	銅	18前	△		火皿が特異な形。

119	0.92/0.90	4.4/6.3	1.5	銅	18~19	△	
121	0.95/0.96	4.4/4.8	1.7	銅	19代	△	火打石・火打金
122	1.50/1.40	4.0/5.0	1.5	銅	19代	○	火打石・火打金
〃	0.97/0.95	4.1/5.2	1.6	銅	19代	○	
125	0.91/	4.0/	1.3	銅	19代	△	鉄(半分のもの) 2つ・笄
128	1.15/1.15	4.8/5.5	1.6	銅	18後	△	火打石・火打金・輪(鉄製)
131	/1.20	/8.5		銅	19代	△	
	1.26/	3.5/	1.4	銅		△	
134	1.20/1.24	4.6/5.4	1.9	銅	19代	△	火打金
143	/1.10	/7.0		銅	17後~18	△	火打石
144	1.10/1.05	4.9/6.1	1.9	銅	18後~19	△	
145	/1.17	/4.1		銅	時期不明	△	沈線で四角い窓に文字を描く。土師器・玉(数珠か)
149	1.03/1.05	5.7/4.7	1.4	銅	17前	△	
152	1.08/1.04	4.3/5.5	1.6	銅	19代	△	火打金
153	1.05/1.06	3.5/6.5	1.6	銅	19代	△	火打金
157	0.95/0.94	4.1/4.8	1.9	銅	19代	△	火打石
158	1.37/1.35	4.9/5.2	2.1	銅	19代	△	火打金
163	1.15/1.06	4.0/5.3	1.5	銅	19代	△	
168	/1.10	/7.3		銅	17後~18前	△	銀メッキ、毛彫りで花の紋様
170	1.30/1.24	6.0/7.0	1.5	銅	18後	△	火打石・火打金・不明鉄製品
177	/0.96	/5.4		銅	時期不明	△	小型
178	1.02/1.02	5.5/6.3	1.6	銅	18後	△	
180	0.85/0.90	5.6/7.5	1.7	銅	18中	○	
182	1.06/1.00	8.3/7.6	1.8	銅	18代	△	
184	1.33/1.23	4.0/4.7	1.8	銅	19前	△	不明銅板
186	1.21/	/6.6	1.7	銅	18前	△	
187	0.89/1.05	4.3/5.2	1.8	銅	19代	△	鉄製品
188	1.05/1.03	6.9/6.2	1.7	銅	18代	△	鉄製品
189	1.14/1.07	4.2/7.7	1.7	銅	19代	△	
		(1.9)/	1.5	銅	18中		
		(3.3)/	1.7	銅	18代		
211	/1.17	/10.3		銅	時期不明	△	沈線で植物を描く
217	1.15/1.15	(4.3)/5.3		銅	19代	△	
218	1.10/1.10	4.7/5.5	1.4	銅	19代	△	
外	/1.13	/8.8		銅	17前~後		
	1.05/1.00	6.2/(4.7)	1.7	銅	18中	△	



插図27 UNJ 1 SK28 5 SK39 8 SK72
 2・3 SK30 6 SK52 9・10 SK76
 4 SK32 7 SK69

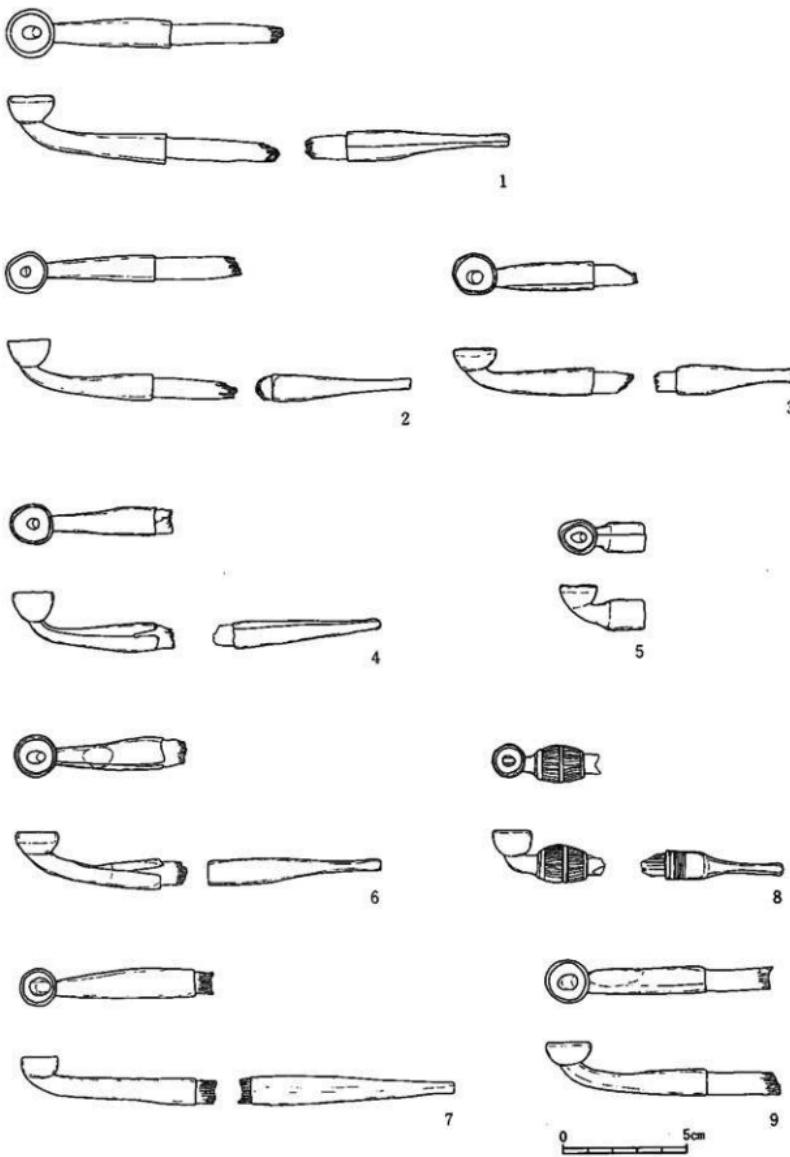
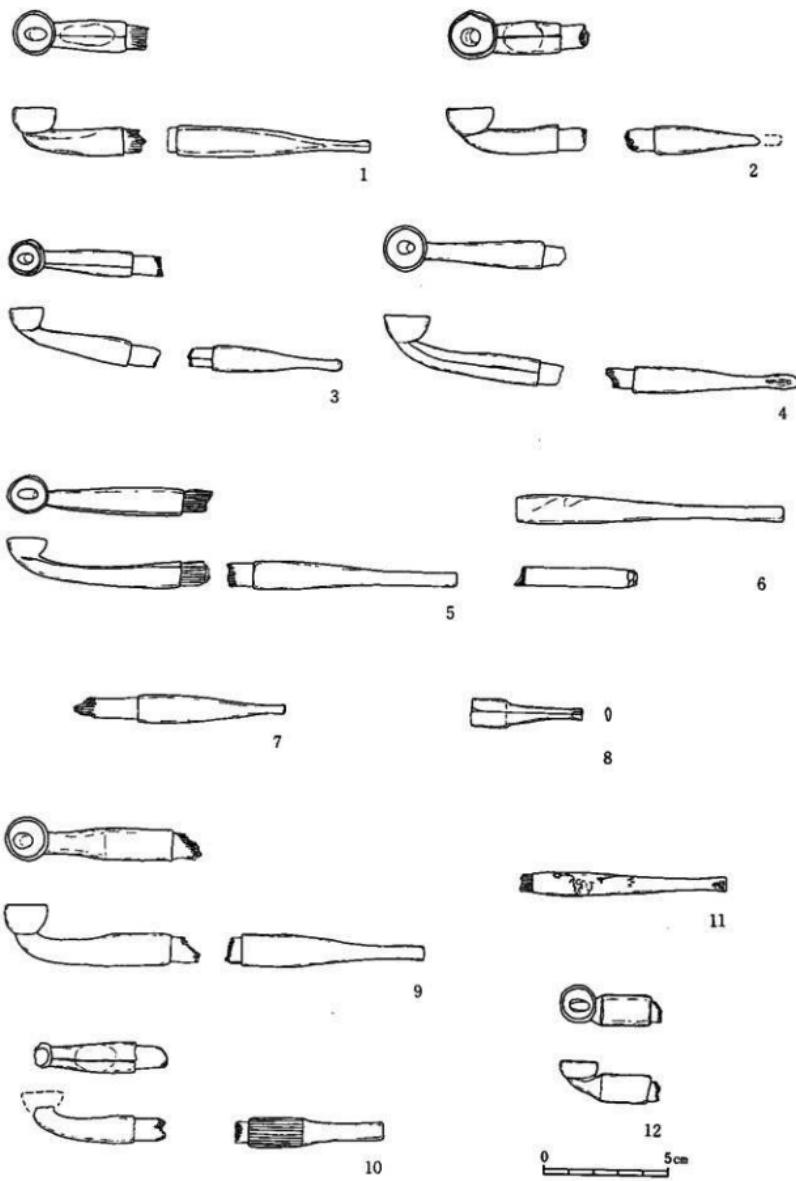


插圖28 UNJ 1 SK77 4 SK85 7 SK94
2 SK82 5 SK88 8 SK96
3 SK83 6 SK90 9 SK97



挿図29 UNJ 1 SK97 4 SK100 7 SK105 10 SK109
 2 SK98 5 SK101 8 SK107 11 SK112
 3 SK99 6 SK104 9 SK108 12 SK113

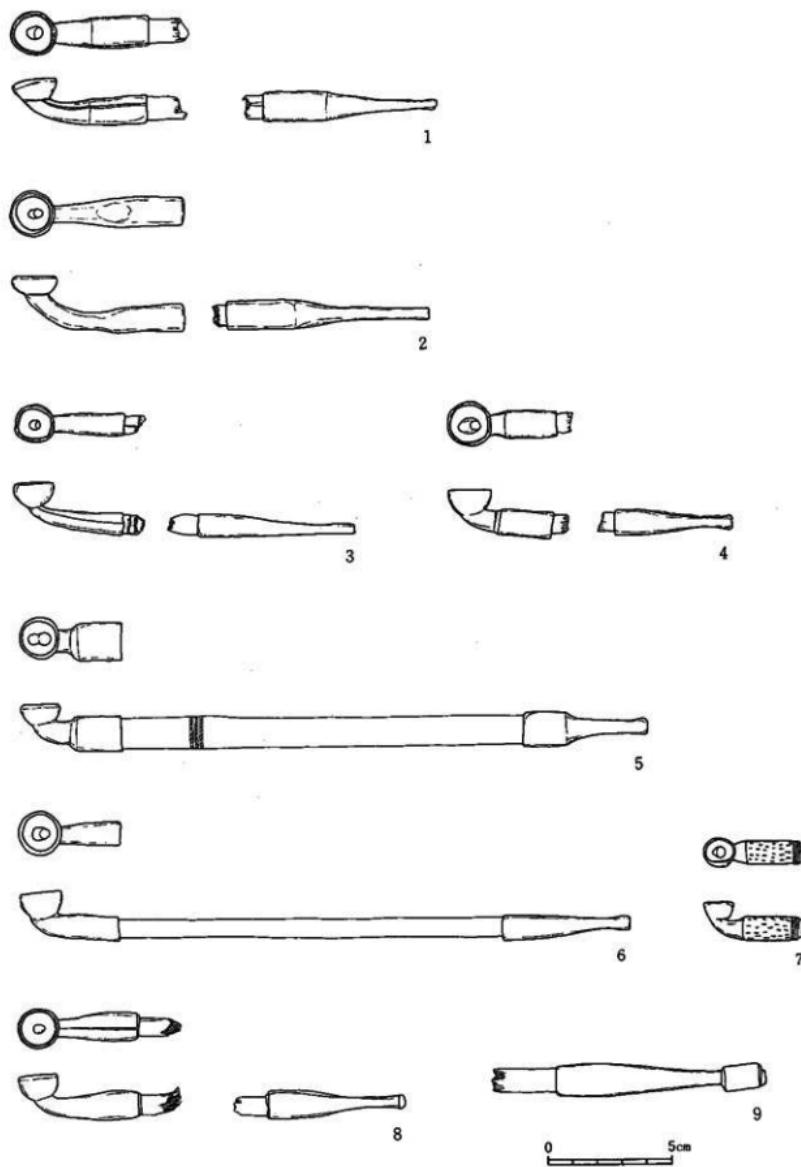
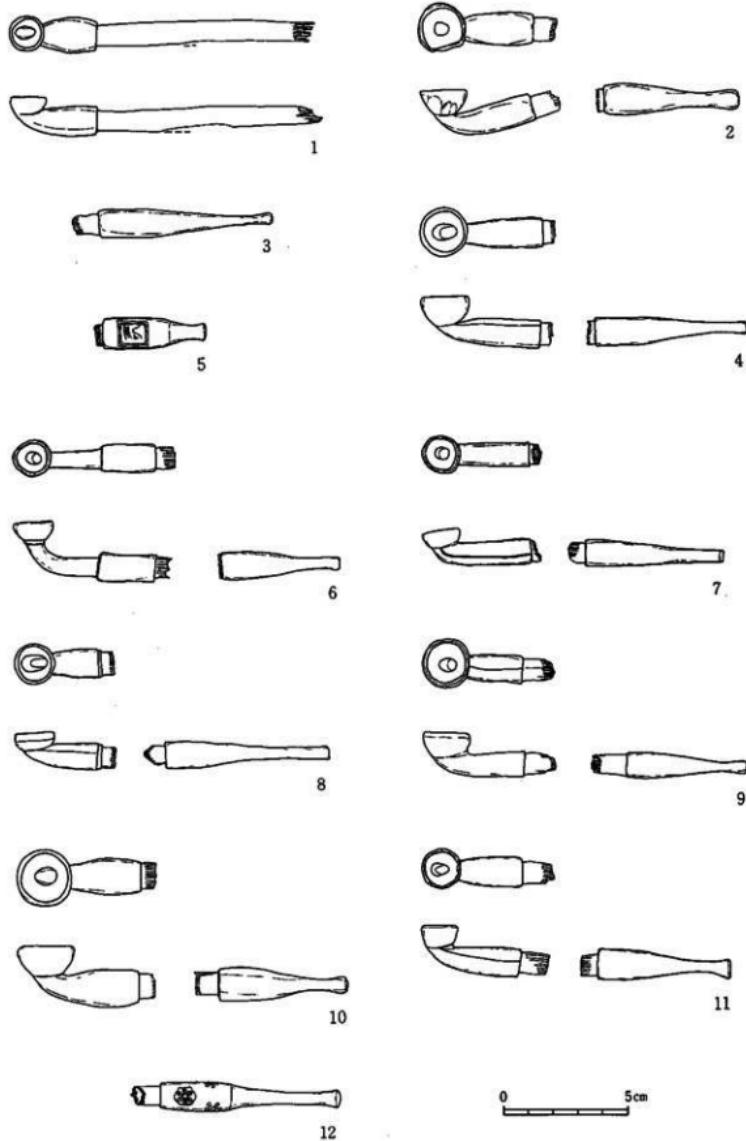
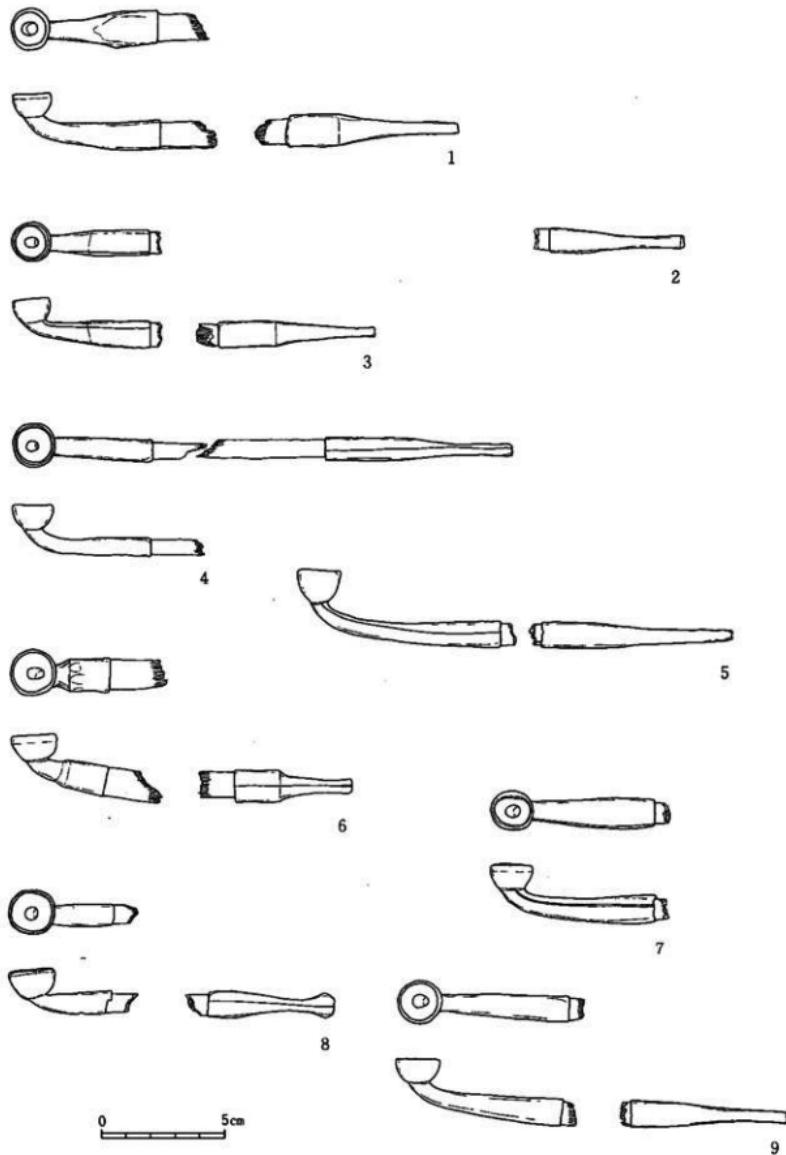


插圖30 UNJ 1 SK115 4 SK121 8 SK128
2 SK118 5-6 SK122 9 SK131
3 SK119 7 SK125



插図31 UNJ 1 SK131 4 SK144 7 SK152 10 SK158
 2 SK134 5 SK145 8 SK153 11 SK163
 3 SK143 6 SK149 9 SK157 12 SK168



插図32 UNJ 1 SK170 4 SK180 7 SK186
 2 SK177 5 SK182 8 SK187
 3 SK178 6 SK184 9 SK188

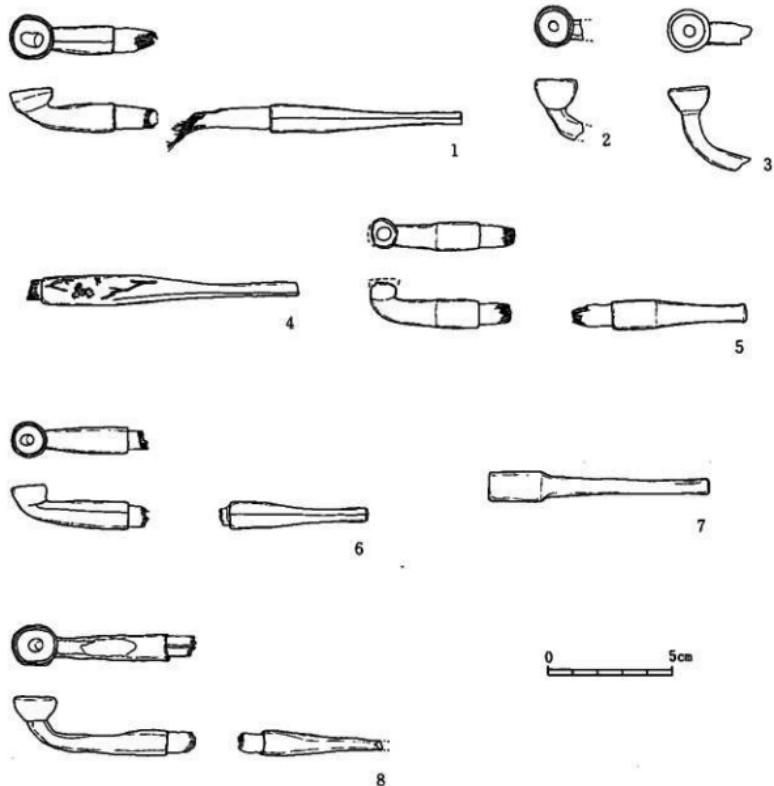


插图33 UNJ 1 SK189 4 SK211 7·8 造構外
2 SK194 5 SK217
3 SK210 6 SK218

錢貨

火葬墓から出土する錢貨の枚数はまちまちである。したがって、火葬墓に副葬されている錢貨を直接六道思想と結び付けることには多少の疑問が残る。奈良・平安時代から行なわれていた錢貨の副葬という習慣の延長である可能性が強いものだろう。

それに対し、土壙墓から出土する貨銭の多くは寛永通寶であり、枚数もほぼ6枚である。枚数からのみいえば六道思想に基づいた六道錢と考えられる。

[六道]

(仏) 衆生が善惡の業によっておもむき住む六つの迷界。すなわち、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天。六觀音・六地獄・六道錢・六道の辻はこれに由来する。六趣。

[六道錢]

死人を葬る時、棺に入れる六文の錢。俗に、三途の川の渡し錢だというが、金属の呪力で惡靈の近づくのを避けようとしたのが起源だという。

(新村出編『広辞苑』第三版 岩波書店)

以前から行なわれている風習である地鎮祭のとき柱の下に錢をいれるという行為が、土地を鎮めるための呪力として実施されていた行為を死者の眠る土地を鎮めるところまで、拡大解釈したものとみてよいだろう。この六道錢の風習が六道思想と結び付けられたのは室町時代ともいわれ、死者のあの世における安全と平穏を保証する呪力として、墓の中に入れたものであろう。(栄原永遠夫1991)

使用されている錢貨の種類が「渡來錢」→「古寛永」→「文錢」→「新寛永」と中世以降使用された錢貨から幕府の錢貨が切り替わっていく様子を東海道の宿場に残された文章によって明快に復元されていることから(鈴木公雄1987・1988など)出土した錢貨をみるとことにより、墓の時代もほぼ特定できる。北の原遺跡での六道錢の在り方を見ると時期は中世・近世・近代の3時期にわたっており、その特徴は次のとおりである。中世：渡來錢のみで構成されている。

近世：寛永通寶が中心ではあるが、渡來錢含む

近代：明治時代の銅貨を含む

①中世（焼骨があり、渡來錢のみで構成された六道錢をもつ墓）においては出土する六道錢の状態から墓を2形態に分類することができる。

1、錢が焼けている。重なるものはないが、破損が著しい。

火葬施設そのまま墓地としたもの。

六道錢と一緒に焼いてから墓地に移したものもある。

2、錢は重なることがあるものの焼けいてない。

再葬のための施設として、墓が造られている。

これとは別に蔵骨器をもつ墓があったが、これには六道錢は入っていないかった。

②近世（寛永通寶を含む六道錢、全部が寛永通寶の場合。何枚かの渡來錢を含む場合。）ではいずれも土葬で棺桶直葬である。多くは丸棺であるが、方形の棺桶を使用したものもある。

③近代（今回確認できた最も新しい六道錢は、明治10年の銅貨が含まれているものある。）

このことから、六道銭（鉄貨）を棺桶に入れたのは明治初頭までである。火葬になった現在でも六道銭思想は残っており、紙ではあるが棺桶の中に入れ一緒に燃やす風習もある。

渡来銭と寛永通寶

室町時代は、日本では銭を鋳造しなかったため、宋・元・明銭を主としこれに悪質の私鋳銭が混用され、同一価格標示で質の異なる種々の銅銭が流通したため、商取引・年貢納などに悪銭を忌避する傾向を生じた。撰銭行為の激化は金錢賃借・商品交換を混乱渋滞させ、物価高騰を招いたので、しばしば特定悪銭以外の撰銭の禁止を発布した。江戸時代、寛永通寶の鋳造流通により終止した。

1636年寛永通寶の量産が始まるとともに永楽銭の通用禁止

1670年寛永通寶以外の流通禁止

しかし、その後も宋・元・明銭が一文として使われていたものと見られる。

古寛永と新寛永（時期決定資料として）

寛永銭は水戸の商人佐藤新助が最初の許可を得て、寛永三年（1626年）に鋳造したのに始まる。それを同十三年になって幕府が引継ぎ、江戸・近江の二か所で官鋳し始めるとともに、全国通用の法定貨とした。明暦二年（1656年）一時鋳造は中断されたが、寛文八年（1668年）から復活し、以後明治の初期まで二百年にわたってつくられた。その中断された以前に鋳造されたものを古寛永、以後のものを新寛永とよんでいる。

六道銭

火葬墓から出土する銭貨の枚数はまちまちである。したがって、火葬墓に副葬されている銭貨を直接六道思想と結び付けることには多少の疑問が残る。奈良・平安時代から行なわれていた銭貨の副葬という習慣の延長である可能性が強いものだろう。

それに対し、土塙墓から出土する貨銭の多くは寛永通寶であり、枚数も6枚のものが目立つ。枚数からみいえば六道思想に基づいた六道銭と考えてもよいだろう。

また、銭貨の種類が「渡米銭」→「古寛永」→「文銭」→「新寛永」と中世以降使用された銭貨から幕府の銭貨が切り替わっていく様子を東海道の宿場に残された文章によって明快に復元されていることから、（鈴木公雄1987・1988など）出土した銭貨をみるとことにより、墓の時代もほぼ特定できる。

このような変遷をふまえて今回調査した北の原遺跡での六道銭の在り方を見ると、墓の時期は中世・近世・近代の3時期にわたっていることがわかる。

その特徴は次のように示すことができる。

中世：渡来銭のみで構成されている。

近世：寛永通寶が中心ではあるが、渡来銭含む

近代：明治時代の銅貨を含む

そこで時代別に墓のありかをみると次のようなことがいえる

中世（焼骨があり、渡来銭のみで構成された六道銭をもつ墓）においては、出土する六道銭の状態も含めて墓を2形態に分類することができる。

1、銭が焼けており、破損が著しい。また、散乱して出土することが多い。

これは、火葬施設をそのまま墓地としたものと判断でき、

副葬された六道銭も一緒に焼かれたものだろう。

2、まとまって出土する銭は焼けいてない。

再葬のための施設として墓が造られたものと判断できる。したがって火葬後骨・灰を移し墓地とした可能性がある。そこへ銭を副葬したものだろう。

これとは別に蔵骨器をもつ墓がある。これには六道銭は入っていない例もある。

近世（寛永通宝を含む六道銭、全部が寛永通宝の場合。何枚かの渡来銭を含む場合。）ではいずれも土葬で棺桶直葬である。多くは丸棺であるが、方形の棺桶を使用したものもある。

近代（今回確認できた最も新しい六道銭は、明治10年の銅貨が含まれているものある。）

のことから、六道銭（銭貨）を棺桶に入れたのは明治初頭までである。

火葬になった現在でも、六道銭の思想は残っており、紙ではあるが棺桶の中に入れ、一緒に燃やす風習がある。

寛永通寶を伴わない六道銭が出土した遺構（中世とみられる）

C G Y

遺構	枚数	種類	備考
SI- 2	5	正隆元寶・至道元寶・永樂通寶 2・不明	六道銭
	5	皇宋通寶	
	7	開元通寶・政和通寶・永樂通寶 4	六道銭
	10	皇宋通寶 2他不明	六道銭
	11	天聖元寶・皇宋通寶・熙寧元寶・元豐通寶・元符通寶・聖宋元寶	六道銭
	13	淳熙元寶（背十一）・皇宋通寶・紹聖元寶	
	14	皇宋通寶・熙寧元寶 2・元豐通寶・元祐通寶 2	六道銭
	15	皇宋通寶・元祐通寶・永樂通寶他不明	六道銭
-17	2	治平元寶・元豐通寶	
	18	天聖元寶・元豐通寶	
	19	開元通寶・天聖元寶・元豐通寶・元祐通寶・元符通寶・永樂通寶他不明	六道銭
	23	永樂通寶・元豐通寶他不明	
	24	皇宋通寶・元豐通寶・熙寧元寶 2・開元通寶他不明	六道銭
	31	元祐通寶・天聖元寶	
	32	祥符元寶	
	64	元祐通寶	
SK-22	4	洪武通寶・元豐通寶・祥符通寶・嘉祐通寶	
	25	洪武通寶・元祐通寶・皇宋通寶	
	29	開元通寶他不明	
	40	開元通寶・天聖元寶他不明	
	53	祥符元寶	
	55	皇宋通寶・聖宋元寶他不明	
	60	元祐通寶	
K-13	4	元豐通寶他不明	



CGY SI-2



SI-5



SI-7



SI-10



SI-11

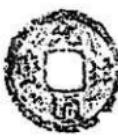


SI-13

摺図35 CGY SI10・SI11・SI13



SI-14



SI-15



SI-17



SI-18

挿図36 CGY SI14・SI15・SI17・SI18



SI-19



SI-23



SI-24



SI-31

插圖37 CGY SI19 · SI23 · SI24 · SI31



SI-32



SI-64



SK-22



SK-25



SK-29



SK-40

挿図38 CGY SI32・SI64・SK22・SK25・SK29・SK40



SK-53



SK-55



SK-60



K-13



插図39 CGY SK53・SK55・SK60・K13

遺構	枚数	種類	備考
SK-16	11	祥符元寶・皇宋通寶・洪武通寶他不明	六道錢
-17	3	皇宋通寶他不明	
43	3	開元通寶・宣德通寶他不明	
58	6	洪武通寶 2 他不明	六道錢
59	1	天聖元寶	
66	5	祥符元寶 2 ・ 皇宋通寶・政和通寶 2	六道錢
67	2	祥符元寶・洪武通寶	
76	1	皇宋通寶	
86	1	淳化元寶	
102	6	天聖元寶 2 ・ 政和通寶他不明	六道錢
103	2	不明	
123	5	開元通寶・皇宋通寶・熙寧元寶・洪武通寶他不明	六道錢
135	6	淳化元寶・開元通寶 2 他不明	六道錢
144	3	元豐通寶他不明	
148	3	熙寧元寶他不明	
150	6	開元通寶 2 ・ 天聖元寶・皇宋通寶・元豐通寶 2	六道錢
160	6	元豐通寶・聖宋元寶 2 他不明	六道錢
161	3	至和元寶他不明	
162	6	皇宋通寶・熙寧元寶・元豐通寶・元符通寶他不明	六道錢
178	5	咸平元寶・祥符元寶 2 ・ 聖宋元寶 2	六道錢
179	6	祥符元寶・皇宋通寶他不明	六道錢
181	3	開元通寶・洪武通寶他不明	
185	5	天聖元寶他不明	六道錢
191	4	洪武通寶 4	
208	4	開元通寶・洪武通寶他不明	
214	3	祥符元寶他不明	
217	4	皇宋通寶・永樂通寶他不明	
281	2	皇宋通寶・元豐通寶	
火葬B	2	聖宋元寶他不明	
SH-1	13	開元通寶 2 ・ 聖宋元寶・政和通寶 2 ・ 永樂通寶 3 他不明	六道錢
2	4	祥符元寶・天聖元寶・永樂通寶 2	
3	1	開元通寶	

これらの遺構はすべて基とみられるが、確定できないものもある。しかしながら、これらの銭貨は六道錢とみるのが妥当であろう。時期は中世後期から江戸時代のごく初期の間と判断できる。寛永通寶が鋳造されるまでは渡来錢を一文として使用していたからである。



SK-16



SK-17



SK-43

插図40 UNJ SK16・SK17・SK43



SK-58



SK-59



SK-66



SK-67

挿図41 UNJ SK58・SK59・SK66・SK67



SK-76



SK-86



SK-102



SK-103



SK-123



SK-135



SK-144



SK-148

挿図43 UNJ SK123・SK135・SK144・SK148



SK-150



SK-160



SK-161

插図44 UNJ SK150・SK160・SK161



SK-162



SK-178



SK-179

挿図45 UNJ SK162・SK178・SK179



SK-181



SK-185



SK-191



SK-208



SK-214

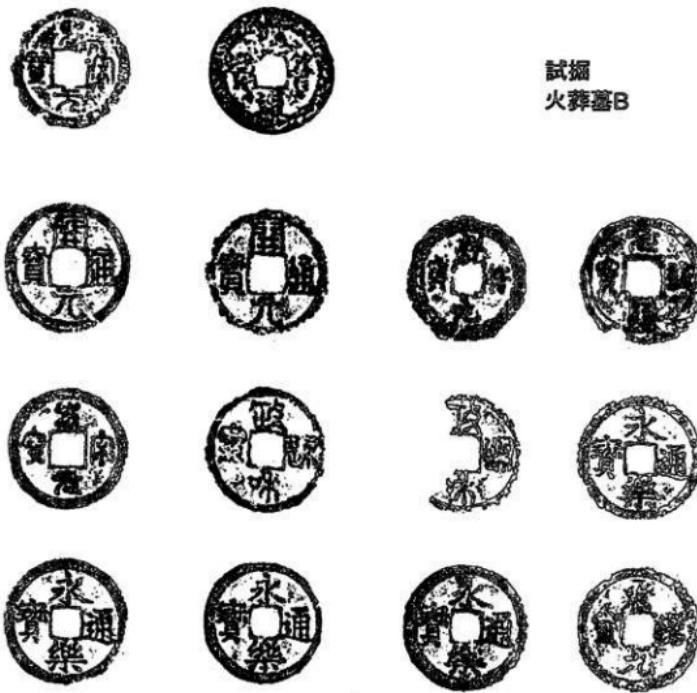


SK-217

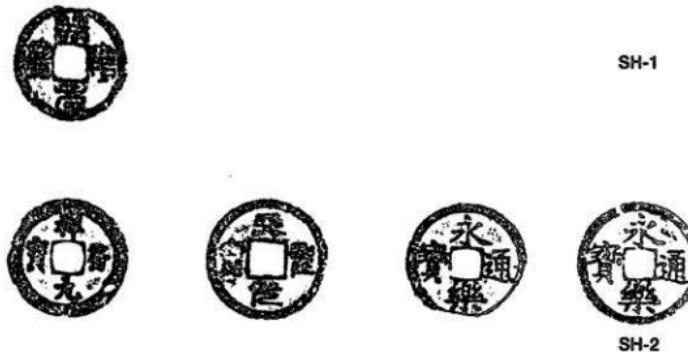


SK-281

試掘
火葬墓B



SH-1



SH-2

插図48 UNJ 墓葬墓B・SH 1・SH 2



SH-3

押図49 UNJ SH-3

江戸時代以降とみられる造幣（墓）

松尾北の原 (MKH)

土壤墓 No.	渡来 錢	寛永通寶						文久永宝	その他	合計	備 考
		古 寛 永	文	佐	元	足	小				
3		2	1				4			7	六道錢

茶柄山 (C G Y)

3	7	1								8	
7	4	2								6	
8	1	1								2	
11	1	5								6	皇宋通寶
12	3						4			7	
13	5						1			6	
18	6									6	
23	1									1	
26	4	4								8	
27	8	1								9	
35		1					3			4	
39	5	1								6	
46	1	3	2	1			6			13	永樂通寶。2基か
77	7									7	
78	1	2	1				8			12	永樂通寶。2基か

上の城 (UNJ)

	渡	古	文	佐	元	足	小	新	鉄	四	久	そ	計	
20								6			1	7	不明	
28		2	1					4				7		
37			1					2				3		
39	1	2	4									7	治平元寶	
52	1	1						5				7	永樂通寶	
69	2		1					5				8	聖宋元寶。□□元寶（破片）	
72		1	2		1			3				7		
77								7				7		
82	1	3	3					8				15	乾元重寶	
83		1			1			4				6		
88	1							5				6	永樂通寶	
90		3	1		1			7				12	2基か	
97			1					5				6		
99								6				6		
100		1	2					4				7		
105				1	2			5				8		
106		1			1			5				7		

	渡	古	文	佐	元	足	小	新	鐵	四	久	そ	計	
9 9								6					6	
1 0 0		1	2					4					7	
1 0 5				1	2			5					8	
1 0 6		1			1			5					7	
1 1 3		1						4					5	
1 1 5								6					6	
1 1 6		1						5					6	
1 1 8		1						3					4	
1 1 9		1	1					5					7	
1 2 2								4					4	
1 2 6		1	1					3					5	
1 2 7								2					2	
1 2 8								7					7	
1 2 9	1	1						3					5	皇宋通寶1
1 3 6		2	1								1	4		熙寧元寶1
1 4 2		1						1		1	2	2	7	寛永(明和6舊永)文久(草文の文久3年・真文)明治半錢
1 4 3								5				1	6	
1 4 9		4	1									1	6	
1 5 4		6	1										7	
1 5 7		1						1					2	
1 5 8		1	1					5					7	
1 6 3		1	1					5					7	
1 6 5		1	1					5					7	
1 6 7	1	4	1										6	元豊通寶
1 6 9			1					1				1	3	
1 7 0								4				1	5	
1 7 2		1	3										4	
1 7 3			2	1									3	
1 7 4	1	3						1					5	元符通寶
1 7 5		2	1					4					7	
1 7 6		5	1					9					15	2基か
1 7 7		1	1					2			3	7		
1 8 0		1						6					7	
1 8 7	2		1	1	1			1			2	8		□□元寶・開元通寶
1 8 8								3					3	
2 0 1	1		3					3					7	萬曆通寶
2 0 2		6						1					7	新は混入か
2 0 3		6											6	
2 0 6	1	5											6	元豊通寶
2 1 8		1	1					5					7	
2 6 6		1			1			5					7	
2 8 2	1	1										2		元符通寶



擇圖50 MKH SK 3



SK-3



SK-7



SK-8

挿図51 CGY SK 3 · SK 7 · SK 8



SK-11



SK-12



SK-13



SK-18

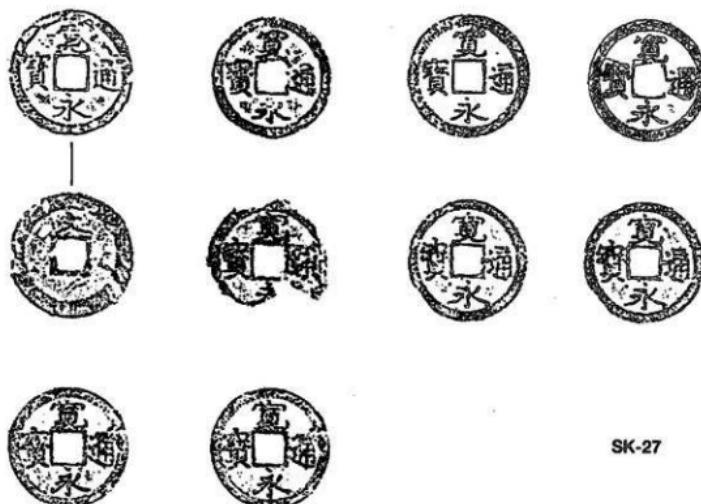


SK-23



SK-26

挿図53 CGY SK18・SK23・SK26



SK-27

挿図54 CGY SK27

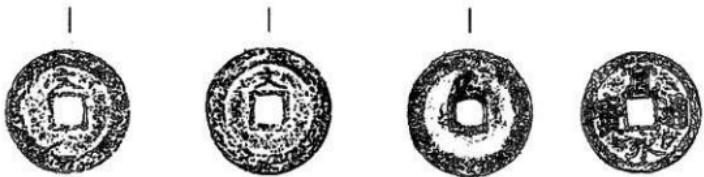


SK-35



SK-39

摺図55 CGY SK35・SK39

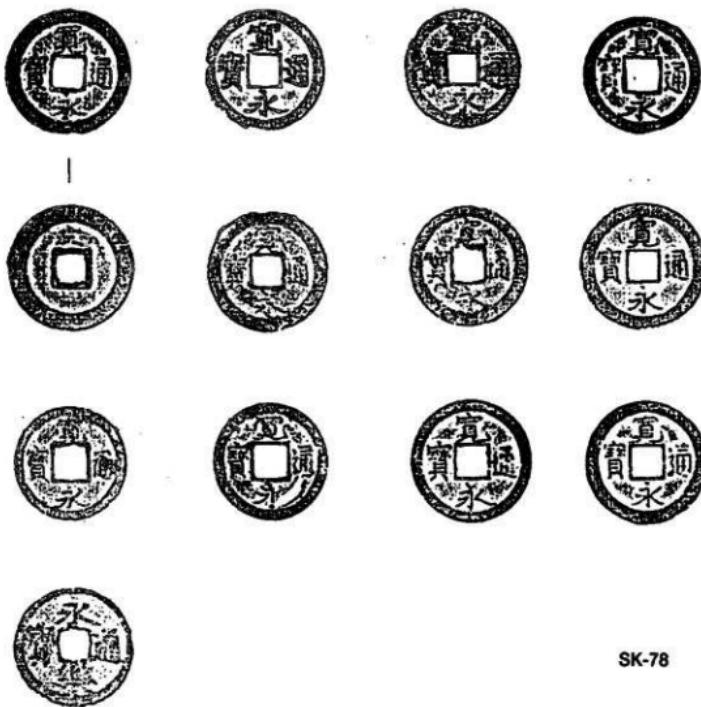


SK-46



SK-77

插圖56 CGY SK46・SK77



SK-78

插圖57 CGY SK78



SK-20



SK-28



SK-37

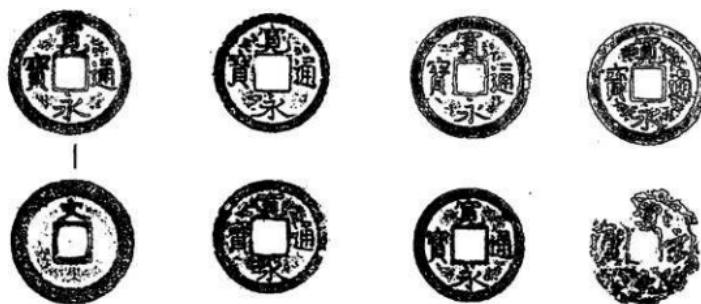


SK-39

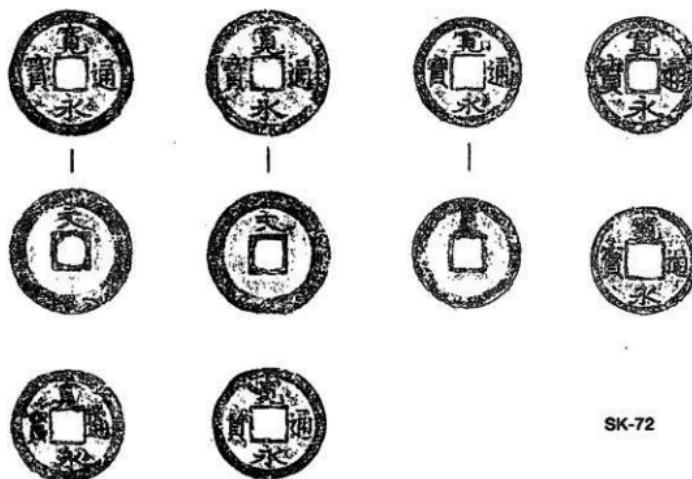


SK-52

挿図59 UNJ SK39・SK52



SK-69



SK-72

插圖60 UNJ SK69・SK72



SK-77



SK-82

挿図61 UNJ SK77・SK82



SK-82



SK-83



SK-88

插図62 UNJ SK82・SK83・SK88



SK-90



SK-97

插図63 UNJ SK90・SK97



SK-99



SK-100

擇圖64 UNJ SK99・SK100



SK-105



SK-106

押図65 UNJ SK105・SK106



SK-113



SK-115



SK-116



SK-118



SK-119



SK-122



SK-126

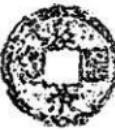
插图67 UNJ SK118 · SK119 · SK122 · SK126



SK-127



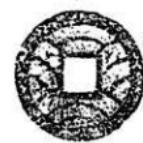
SK-128



SK-129



SK-130



SK-142

插圖69 UNJ SK130・SK142



SK-143



SK-149



SK-154

挿図70 UNJ SK143・SK149・SK154



SK-157

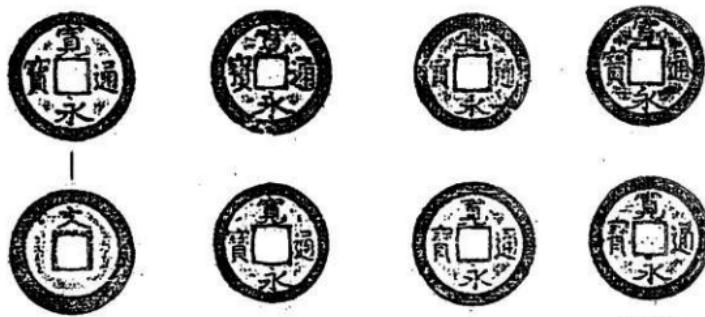


SK-158

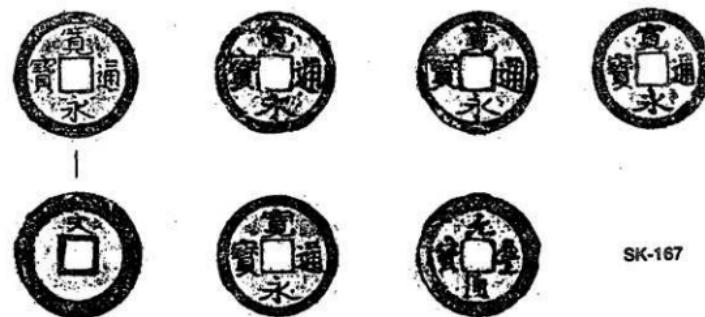


SK-163

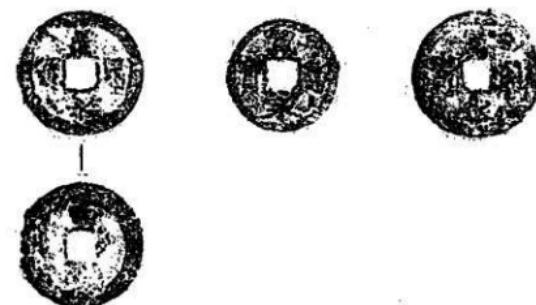
插圖71 UNJ SK157 · SK158 · SK163



SK-165



SK-167



SK-168

摺圖72 UNJ SK165・SK167・SK169



SK-170



SK-172



SK-173

挿図73 UNJ SK170・SK172・SK173



SK-174

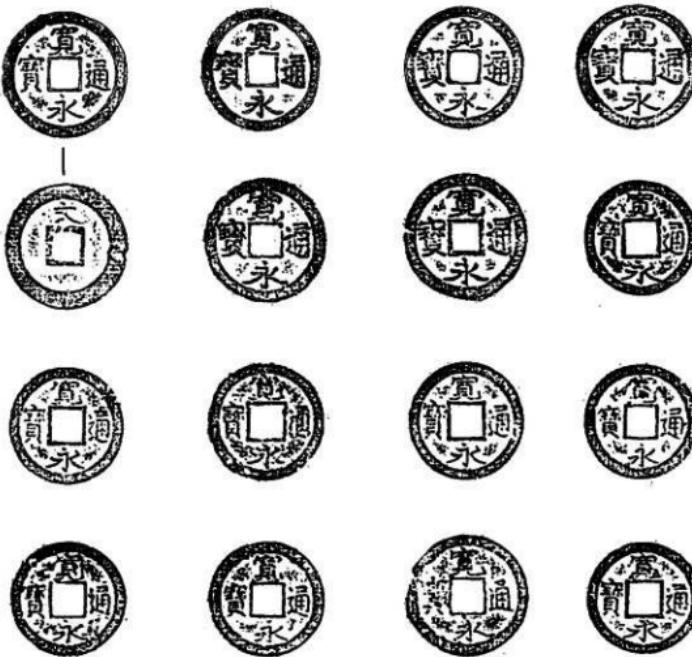


—

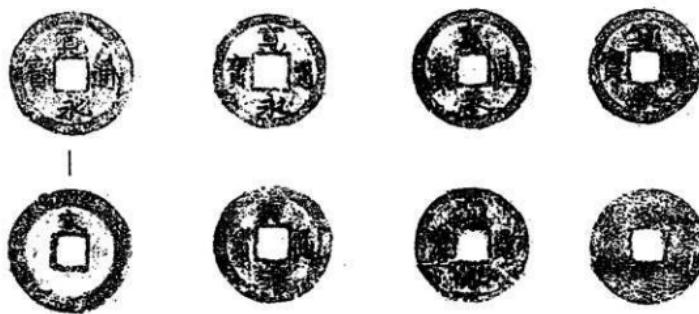


SK-175

挿図74 UNJ SK174・SK175



SK-176



SK-177



SK-180



SK-187



SK-188

插図76 UNJ SK180・SK187・SK188



SK-201



SK-202

插圖77 UNJ SK201・SK202



SK-203



SK-206



SK-218

插圖78 UNJ SK203 · SK206 · SK218

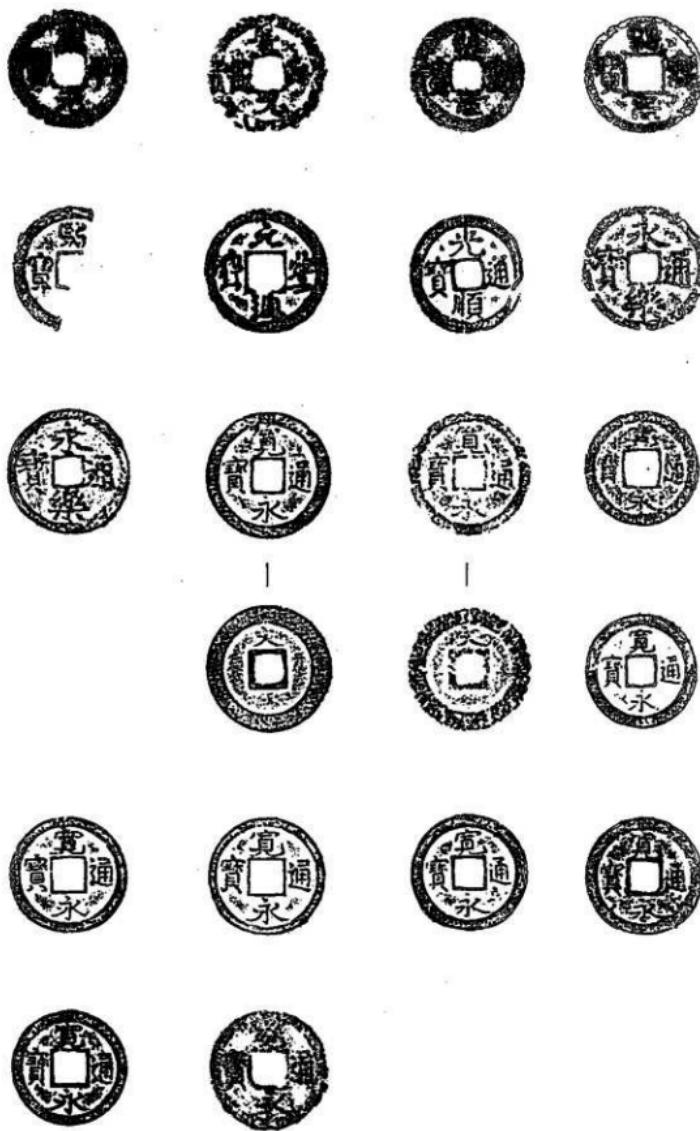


SK-266



SK-282

造精に伴わないもの



掲図80 CGY 造様外



擇圖81 CGY 造橫外

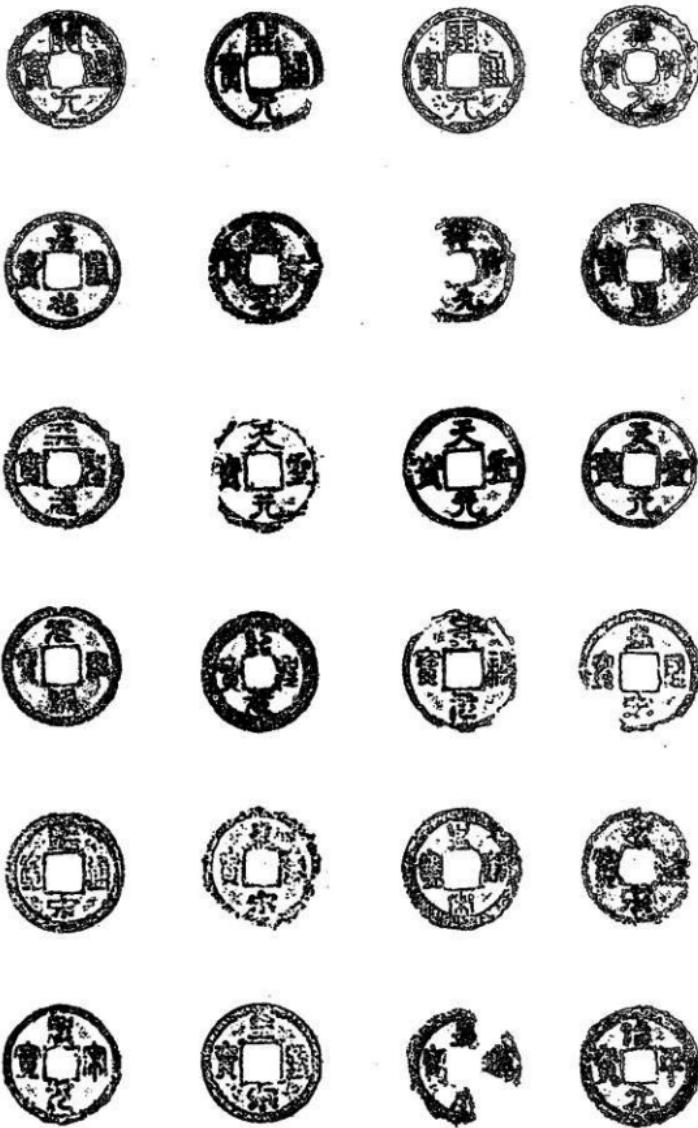


插圖82 UNJ 造機外

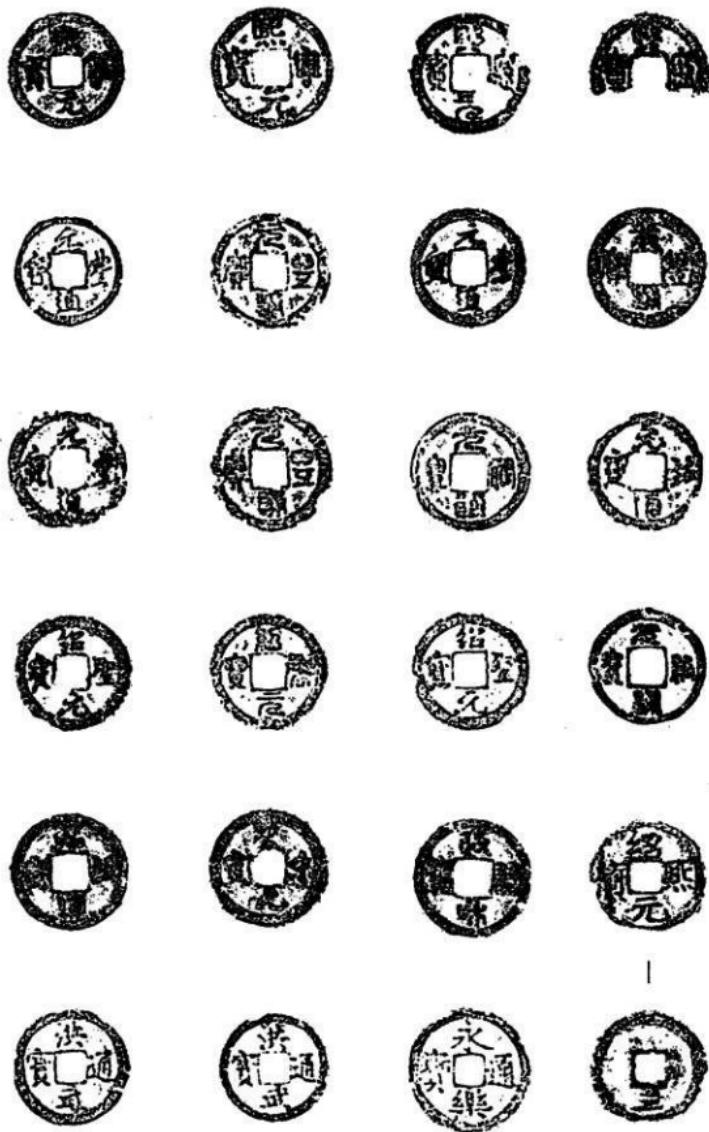


插图83 UNJ 造样外



擲圖84 UNJ 遺構外

骨蔵器

中世の墓のうち蔵骨器を伴うものとして、拳大の石をアトランダムに置いた（もしくは、穴を小石で埋めた）ものから横倒しになった古瀬戸四耳壺が出土した。(UNJSI-09) さらには、人頭大の石の下に水注(UNJSK-44)が蔵骨器に転用され埋められたものがある。他にも茶入や壺が出土しているがこれらも蔵骨器の可能性が強い。

近世前期には見られなかった物であるが、江戸時代末期になったころからまた蔵骨器が見られる。詳細な発生時期はわからないが、蓋とセットになった蔵骨器が作られている。

その他

SK-212出土のシャーペンシルについて

SK-212はカバンと帽子が出土したことから、若年者の墓とみられる。

副葬品としていれられたシャーペンシル(10図8)の時期について、関係業者に問い合わせた結果つぎ的回答を得た。

「①出土品がシャーペンシルであることを否定できません。シャーペンシルはさほど古い年代の商品ではありません。

②出土品の表面に緑青が吹いている事より、材質は銅合金と思慮いたします。

③出土品の表面にP E A C E の文字及び20個の星印が明瞭に表示されているが、銅合金の表示にこれらの文字を表示する金属加工の技術は近代のものです。

④出土品の表示にMMとインチの表示及び1-3、1-7の細かい数字が明瞭に表示されているが、銅合金の表示にこれらの文字を表示する金属加工の技術は近代のものです。

上記①から④より出土品の時代につきましては昭和初期以降であると推定いたします。」

ゼブラ株式会社

「出土品に関する情報がございません。」

コクヨ株式会社

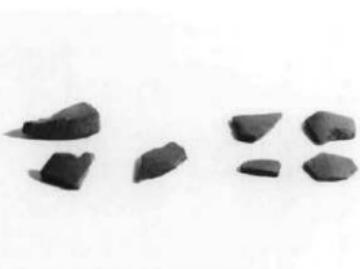
「当社のものではありません。」

三菱鉛筆株式会社

写 真 図 版



CGG SB01



CGG SB01



MKH SM02



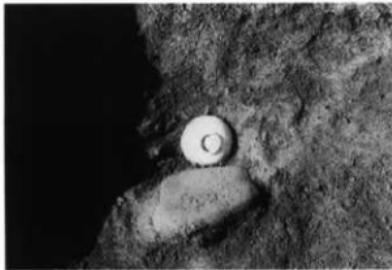
MKH SM02



UNJ SI09



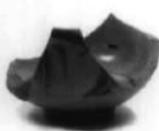
UNJ SI09 四耳壺



UNJ SK39



INJ SK44



CGY SK3

CGY SK5



UNJ ZZZ

UNJ ZZZ

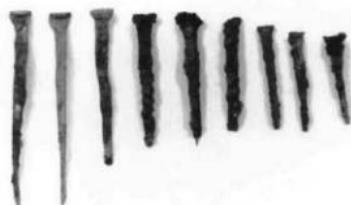


UNJ ZZZ



UNJ ZZZ





CGY SK15



CGY SK11



CGY SK12



CGY SK12



CGY SK22

釘	釘
鈴 杖	
硯	小柄 メ釘
脇差	仏具



CGY SK12



CGY SK12



UNJ SK82



UNJ SK82



UNJ SK107



UNJ SK145

一括	数珠
鹿角	サンゴ玉
	土鉢
刀	蹄鉄



UNJ 外



CGY 外



CGY 外

煙管と火打金（セット）



C G Y SK27



U N J SK39



U N J SK119



U N J SK121



U N J SK134



U N J SK158



U N J SK187



U N J SK209

火打金

つり下げ型



両脇をまげる



台にうちつける
上から

UNJ SK 153
UNJ SK 119
UNJ SK 119
UNJ SK 106



上から

CGY SK 58
CGY SK 30
UNJ SK 142
UNJ SK 39



上から

CGY SK 12
UNJ SK 74
UNJ SK 209
UNJ SK 158



C G Y 出土
煙管



SK 7

SK 8



SK 12



SK 27



SK 29



SK 39



SK 46



SK 78



SK 外

U N J 出土
煙管



SK 28



SK 30



SK 32



SK 39



SK 52



SK 69



SK 72



SK 76



S K 77



S K 82



S K 83



S K 90



S K 96



S K 112



S K 113



S K 115



S K 118



S K 119



S K 121



S K 122



S K 131



S K 134



S K 144



S K 145



S K 163



S K 168



S K 180



S K 182



S K 184



S K 186



S K 187



S K 188



S K 189



S K 210



S K 外

北の原遺跡
(遺物編)

調査報告書
1996年3月発行

印刷・発行 長野県飯田市上郷3145番
印 刷 長野県飯田市教育委員会
印 刷 飯田共同印刷株式会社

